B6FH-1331-01

LX70H,LX50H,LX70HN,LX50HN

さぁ、はじめましょう

パソコンの準備

1 使い始める前に

2 接続する

3 パソコンを準備する

4 各部名称

5 仕様一覧

付　録

FUJITSU

知りたいことを調べるには

まずはここから!

パソコンの準備

買ってから、使い始める前の準備はこれでバッチリ。

さあ、パソコンを使いこなそう!

FMV 活用ガイド

基本や活用、セキュリティからトラブル解決までこれ一冊。

テレビチューナー内蔵の機種なら

テレビを見る・録る・残すガイド

FMVでテレビを見たり録ったりして楽しむには、これ![注]

注:テレビチューナー内蔵機種のみ添付（ただし、Microsoft®Windows®XP Media Center Edition 2004搭載機種には非添付）

ちょっと確認!

基本操作クイックシート

手元にあると便利、パソコンの基本操作や文字入力の早見表！（三つ折りになっています）

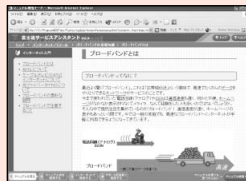
サポートについては…

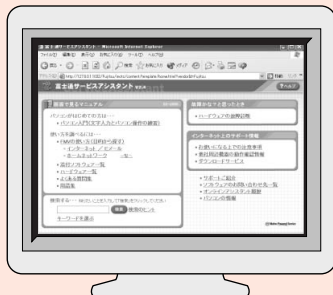
サポート&サービスのご案内

どうしても問い合わせないとわからない…。そんなときはこれ!

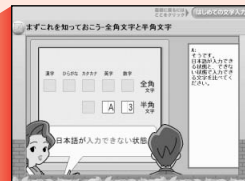
※この他にも、マニュアルや重要なお知らせなどの紙、冊子類があります。

マニュアルは「本」だけではありません!～パソコン画面にもマニュアルがあります～

FMVの使い方

ソフトウェアもハードウェアも、インターネットのことだって、なんでも目的から簡単に探せるので便利!

サービスアシスタント

FMVのことなら、何でもこれにおまかせ!

インターネットにあるFMVの最新情報へもここからアクセスできます。

パソコン入門

パソコンの基本操作や文字入力を楽しく学習したいならこれ!

※この他にも、役に立つ情報が盛りだくさんです。

『パソコンの準備』の内容

必ずお読みください

まず機種名や添付品の確認をします

第１章　使い始める前に（••▶P.15）

必要な機器を接続します

第２章　接続する（••▶P.23）

電源を入れてパソコンを使う準備をします

第３章　パソコンを準備する
1　初めて電源を入れる（••▶P.30）

目的に合わせてお読みください

■各部名称を知りたい（••▶P.55）
■仕様を確認したい（••▶P.62）
■メモリを増やしたい（••▶P.82）

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

・ 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
・ 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
・ 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
・ 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
・ 修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクや CD-R などの媒体にバックアップをお取りください。
・ 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 6 年間です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
（1） 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
（2） 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 壁紙の使用条件
お客様は、「FMV」ロゴ入りの壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
8. 保証の範囲
（1） 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から 1 ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
（2） 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
（3） 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
9. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
記
原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（http://www.microsoft.com/japan/）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがいまして、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

このマニュアルの表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使用しています。これは本製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う危険があることを示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の表示と同時に次のような記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
••▶	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	サービスアシスタントを表しています。次のいずれかの操作で起動できます。 ・キーボードの「サポート」ボタンを押す ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「富士通サービスアシスタント（マニュアル&サポート）」→「富士通サービスアシスタント」の順にクリック
	CD-ROM ／ DVD-ROM を表しています。

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

正式名称	このマニュアルでの表記	
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition	Windows
Microsoft® Office Personal Edition 2003	Office Personal 2003	
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法	
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ	
MPEG2リアルタイムエンコーダ付きTVチューナーカード	ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	
富士通サービスアシスタント V2.4	サービスアシスタント	
Norton Internet Security™ 2004	Norton Internet Security	

警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。
警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です。
Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です。
Motiveのロゴ、Motive Communications, Inc., ServiceNet PlatformおよびMotiveの他の製品名あるいは技術用語はMotive Communications, Inc. の商標または登録商標です。
SD カードおよび SD ロゴは、SD ASSOCIATION の商標です。
「メモリースティック」、「マジックゲート」は、ソニー株式会社の商標です。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM/DVD-ROM などは大切に保管してください

これらのディスクは、本製品に入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
・ 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが、故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
・ 表示する条件によっては、むらおよび微少な斑点が目立つことがありますが、故障ではありません。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で 2003 年 12 月から開始され、その他の地域でも、2006 年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は 2011 年 7 月に、ＢＳ アナログ放送は 2011 年までに終了することが、国の方針として決定されています。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注 意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
本製品は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

本製品には、有寿命部品（CRT、液晶ディスプレイ、ハードディスク、CD/DVD ドライブなど）が含まれており、長時間連続で画面を表示させたり動作させたりした場合、早期の部品交換が必要になります。保証期間は 1 年間です（契約により異なる場合があります）。
・ 液晶ディスプレイは寿命とは別にご使用時間によって輝度が低下します。

本製品の使用環境は、温度 10 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 90%RH（非動作時）です（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。

本製品には、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、本製品を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本製品でテレビや DVD、ゲームなどの映像を見たり、本製品にご家庭のテレビなどを接続してご利用になる場合には、部屋を明るくして、画面から充分離れてご覧ください。
映像を視聴する方の体質によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。また、このような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドライン適合品です。

当社は､国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品がパソコンとしての使用において国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

本製品には、マクロビジョンコーポレーション及びその他の権利者が所有している米国特許の方法クレームその他の知的財産権で保護されている著作権保護のための技術が搭載されています。この著作権保護のための技術の使用に関しては、マクロビジョンコーポレーションの許可が必要ですが、家庭及びその他の限定された視聴に限っては許可を受けています。またリバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

ドルビー、DOLBY、AC-3、プロロジック及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

本製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスク、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含有されています。

安全上のご注意

FMV-DESKPOWER を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。

電源・電圧・接続について

警告

・感電のおそれがあるため必ずアース接続を行ってください。
アース接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。
また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

・アース線はガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。

・表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。

・添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

・電源ケーブルやコネクタの金属部分に手を触れないでください。また、電源プラグを抜いた直後は、プラグに触らないでください。
感電の原因となります。

・電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

・電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。
修理は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

・電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。

・カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差し込んだり、電源を入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

・周辺機器の取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

・近くで落雷のおそれがある場合は、パソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、モジュラーケーブルやアンテナケーブルをコネクタから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては機器を破壊し、感電・火災の原因となります。

⚠注意

感電

・電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。

発火

・電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。

発火

・電源ケーブルは壁のコンセントに直接接続してください。
延長ケーブルなどを使用すると、火災の原因となることがあります。

発火

・ディスプレイ以外の機器(指定外の機器)を、パソコン本体に接続して電源を取らないでください。
火災・故障の原因となることがあります。

発火

・電源ケーブルを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。

発火

・指定外の AC アダプタは使用しないでください。
火災・けがの原因となることがあります。

故障

・ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態で使用すると、機器本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

本体・周辺機器の取り扱いについて

⚠警告

感電

発火

・本製品は主電源コンセントの近くに設置し、遮断装置（電源プラグ）へ容易に手が届くようにしてください。
万一、機器から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに機器本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電

・異物（水・金属片・液体など）が機器の内部に入ったときは、ただちに機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

感電

・機器を落としたり、カバーなどを破損したときは、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電

・機器をお客様ご自身で改造しないでください。また、マニュアル等で指示がある場合を除いて分解しないでください。
感電・火災の原因となります。

感電

・開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
感電・火災の原因となります。

・取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師と相談してください。

・機器本体や AC アダプタに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

・機器の上または近くに花びん・植木鉢・コップなどの水が入った容器や、クリップ・ピンなどの金属物を置かないでください。感電・火災の原因となります。

・台所など、湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。
感電・火災の原因となります。

・風呂場、シャワー室など、水のかかる場所で使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

⚠注意

・機器の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

・振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

・機器の開口部（通風孔など）をふさがないように、機器と壁の間に 10cm 以上のすき間をあけてください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

・直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、機器内部が高温になり、火災の原因となることがあります。

・使用中の機器および AC アダプタは布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

・CD/DVD ドライブのレーザ光の光源部を直接見ないでください。
目を傷める原因となることがあります。

・液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着したときは、流水で 15 分以上洗浄してください。
また、目に入ったときは、流水で 15 分以上洗浄したあと、医師に相談してください。
液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

・周辺機器を接続する場合には、弊社純正品をご使用ください。
弊社純正品以外の機器を使用すると、故障の原因となることがあります。

・フロッピーディスクをセットするとき、および取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

・CD または DVD などをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーやスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

・「PC カード」、「SD カード」、「メモリースティック」をセットするとき、および取り出すときには、PC カードスロットや SD カード／メモリースティックスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

・「PC カード」、「SD カード」、「メモリースティック」の使用終了直後は、「PC カード」、「SD カード」、「メモリースティック」が高温になっていることがあります。「PC カード」、「SD カード」、「メモリースティック」を取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となることがあります。

・周辺機器類、マザーボードなどの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

・パソコン本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ワイヤレス LAN 機能内蔵パソコンの取り扱いについて

警告

・病院内や医用電気機器のある場所ではワイヤレス LAN 機能を OFF にしてください。特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。ワイヤレス LAN 機能からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります。

・心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離してください。電波によりペースメーカーの作動に影響を及ぼすことがあります。

・自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くでは使用しないでください。ワイヤレス LAN 機能からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります。

レーザーの安全性について

本製品に搭載されている CD/DVD ドライブは、レーザーを使用しています。

クラス 1 レーザー製品

CD/DVD ドライブは、クラス 1 レーザー製品について規定している米国の保健福祉省連邦規則（DHHS 21 CFR ）Subchapter J に準拠しています。また、クラス 1 レーザー製品の国際規格である（IEC 60825-1）、CENELEC 規格（EN 60825-1）および、JIS 規格（JISC6802）に準拠しています。

注意

・CD/DVD ドライブをマニュアルに記載された説明や手順以外の方法で使用すると、レーザー放射の危険があります。また、CD/DVD ドライブを開くと、危険なレーザーを浴びる可能性があります。ドライブを絶対に分解しないでください。

一部の CD/DVD ドライブには、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードを使用しています。

注意

レーザー光

・CD/DVD ドライブのカバーを開くとクラス 3A またはクラス 3B のレーザーが放射されます。レーザー光線を見つめたり、光学器機を使って直接見たりしないでください。またレーザー放射を直接浴びないようにしてください。

乾電池について

危険

指 示

・電池のアルカリ液が目に入ったときは、失明など障害のおそれがありますので、こすらずに水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。

警告

・乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

・乾電池を入れる場合、＋（プラス）と－（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

・指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

・乾電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

注意

故 障

・長時間使用しないときは、乾電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出しておいてください。万一液漏れした場合は、水に浸した布を硬く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
・電池から漏れた液が体についたときは、水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、水でよく洗い流した後、ただちに医師の診断を受けてください。
・電池ボックスの端子をショートさせないでください。
・寿命がなくなった乾電池はすぐに取り出してください。
放置すると、腐食により装置を傷めることがあります。

破 裂

・この電池は充電式には造られていません。充電すると絶縁物や内部構造などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。

感 電

・電池に直接はんだ付けをしないでください。熱により絶縁物や安全弁などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。

故 障

・電池は、直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。
電池を漏液させるおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。

その他

警告

窒息

・梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。
口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因となります。

感電

・ディスプレイに何も表示できないなどの故障状態で本製品を使用しないでください。故障の修理は「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

注意

健康に注意

・本製品を無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示すような正しい姿勢で使用し、1 時間に 10 分間以上の休憩をとってください。
・いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
・いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
・ひじは 90 度以上に伸ばして操作する。

健康に注意

・ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等、目の傷害の原因となることがあります。1 時間に 10 分間以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。

重量物

・本製品や液晶ディスプレイなどの重量のある装置を動かすときは、必ず 2 人以上で行ってください。
けがの原因となることがあります。

感電

・機器を移動するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、機器が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

感電

・長期間機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

聴力障害

・ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害

・ヘッドホンなどをしたままパソコン本体またはテレビの電源を入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

発火

・本製品（ホームサーバー機能を除く）は連続動作（24 時間動作）を目的に設計されておりません。ご使用にならないときは電源を切ってください。火災の原因となることがあります。

感電

・モジュラージャックに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。

破裂

・機器の廃棄時には、他のゴミと一緒に捨てないでください。
本製品はリチウム電池を使用しており、火中に投じると破裂の恐れがあります。

目次

この本で見つからない情報は、画面で検索しよう！

（サービスアシスタント）のトップ画面 →
キーワードを選ぶ

このマニュアルの表記について ……… 3
安全上のご注意 ……… 7

第1章 使い始める前に

1 確認してください ……… 16
機種名を確認してください ……… 16
添付品がすべて揃っているか確認してください ……… 16
2 使用上のお願い ……… 17
パソコン本体取り扱い上の注意 ……… 17
使用および設置に適した場所 ……… 18
使用および設置に適さない場所 ……… 19
液晶ディスプレイのお手入れ ……… 20
3 必要なものを揃える ……… 21
パソコン本体の箱に入っています ……… 21

第2章 接続する

1 アンテナケーブルを接続する ……… 24
2 キーボード／マウスを準備する ……… 26
3 リモコンを準備する ……… 27
リモコンに乾電池を入れる ……… 27
4 電源ケーブルを接続する ……… 28

第3章 パソコンを準備する

1 初めて電源を入れる ……… 30
接続を確認する ……… 30
初めて電源を入れる〜 Windows のセットアップ ……… 31
2 電源の切り方と入れ方 ……… 43
電源を切る ……… 43
電源を入れる ……… 46
3 インターネットを始めるための準備をする ……… 47
初めてインターネットに接続する前のセキュリティ対策 ……… 47
インターネットに接続するには ……… 49
インターネットに接続したら ……… 49
4 ユーザー登録をする ……… 50
ユーザー登録をするとご利用になれるサービス ……… 50
パソコンの画面上でユーザー登録する ……… 51
5 準備が完了したら ……… 52
パソコンの準備はすべて完了していますか？ ……… 52
パソコンの準備が完了したら『ＦＭＶ 活用ガイド』へ ……… 53
テレビの操作を知りたいときは『テレビを見る・録る・残すガイド』へ ……… 54

第4章 各部名称

1 パソコン本体前面 ……… 56
2 パソコン本体側面 ……… 57
パソコン本体左側面 ……… 57
パソコン本体右側面 ……… 58

3　パソコン本体背面 59
4　ワンタッチボタン 60

第 5 章　仕様一覧

1　パソコン本体の仕様 62
仕様一覧の注記について 66
2　その他の仕様 67
液晶ディスプレイ 67
内蔵スピーカー 67
LAN 機能 67
ハードエンコーダ付き TV チューナーカード 68
リモコン 68

付　録

1　ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて 70
使用に適した配置 70
乾電池について 71
乾電池を交換する 72
通信周波数／ ID 設定値について 73
2　リモコンについて 81
乾電池を交換する 81
リモコンをお使いになる場合の注意 81
3　メモリについて 82
周辺機器の取り扱い上の注意 82
メモリの取り付け場所 84
取り付けられるメモリ 85
メモリを増やす 86
メモリ容量を確認する 91

索引 93

第 1 章

使い始める前に

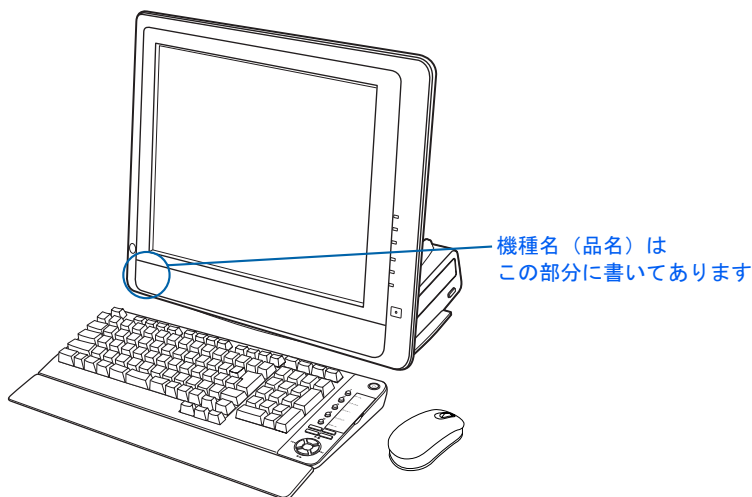
最初に確認していただきたいことと、使用上の注意事項などを説明しています。

1　確認してください 16
2　使用上のお願い 17
3　必要なものを揃える 21

1 確認してください

最初に確認していただきたいことを説明します。

機種名を確認してください

お使いの機種によって、マニュアルを読む箇所が異なります。お使いのパソコンの機種名（品名）を確認しましょう。

添付品がすべて揃っているか確認してください

「箱の中身を確認してください」をご覧になり、添付品をもう一度ご確認ください。
ご購入後 1ヶ月以内のハードウェアトラブルや添付品の不足に関するお問い合わせは、「富士通パソコン診断センター」にご連絡ください。1ヶ月を過ぎると、有料となる場合やご提供できないものもありますのであらかじめご了承ください。富士通パソコン診断センターについては、「箱の中身を確認してください」裏面をご覧ください。

（機種により若干異なります）

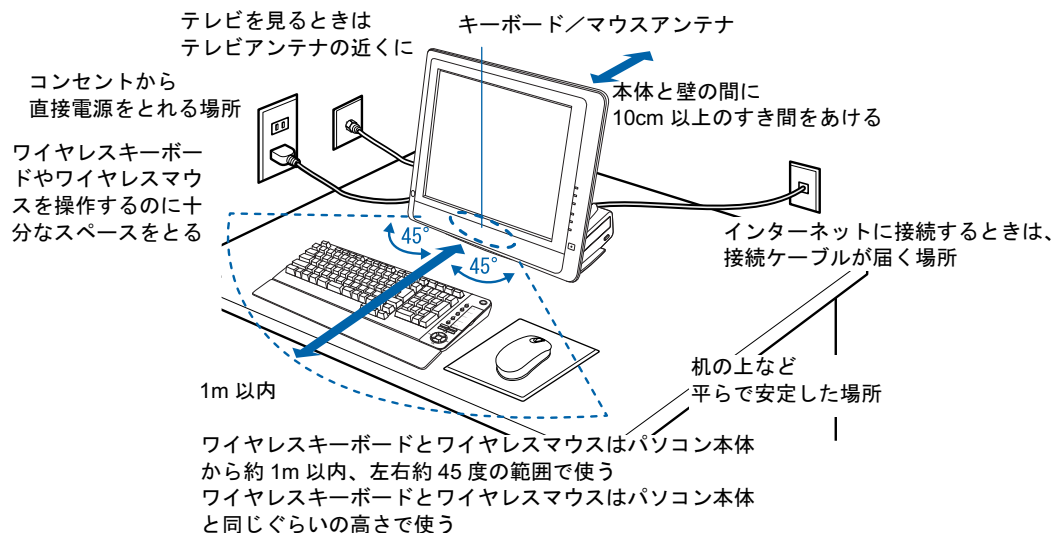
2 使用上のお願い

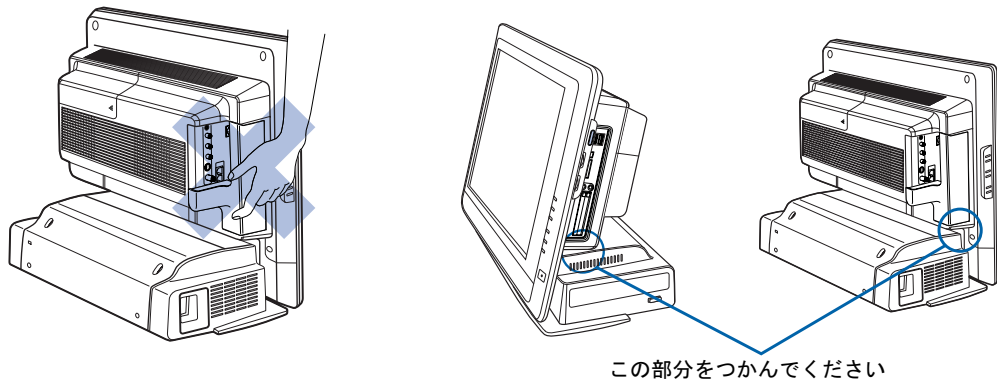
パソコン本体の取り扱い上の注意や、設置するのに適した場所、適さない場所を説明します。

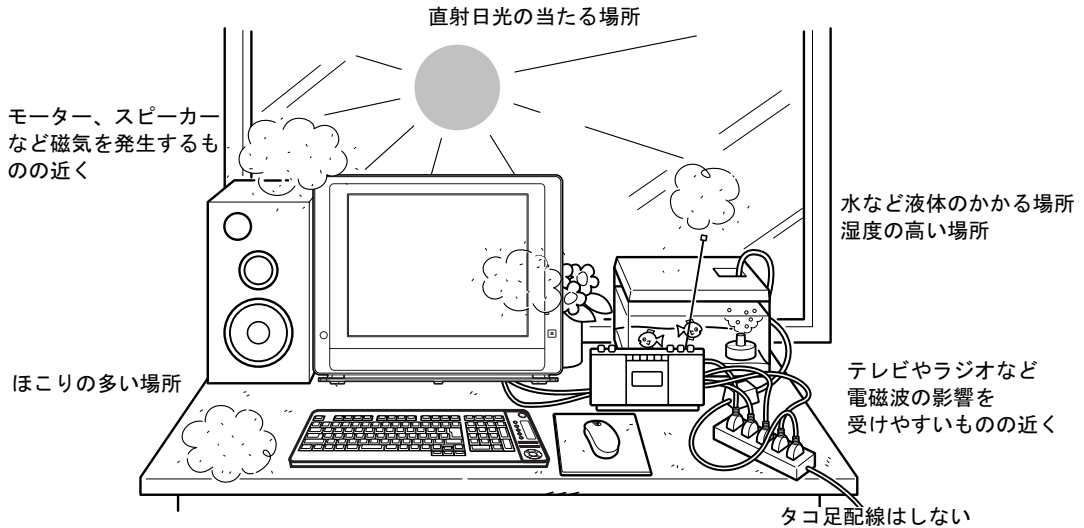
パソコン本体取り扱い上の注意

- 衝撃を与えたり、強い力で押したりしないでください。故障の原因となることがあります。
- ひっかいたり、先のとがったもので押さないでください。画面に傷がつく原因になります。
- スピーカー前面を強い力で押したりしないでください。スピーカーが破損する原因となることがあります。
- 画面やカバーにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- 本製品の近くで、携帯電話や PHS などを使用すると、画面が乱れたり、異音が発生したりする場合がありますので、遠ざけてお使いください。
- 本製品に接続したケーブル類を引っ張った状態で使用しないでください。故障や誤動作の原因となることがあります。

使用および設置に適した場所

パソコンは、次のような場所でお使いください。
ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。信号を受けるキーボード／マウスアンテナはパソコン本体に内蔵されています。

本体を持ち上げたり移動させたりする場合の注意

パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、本体左側面のカバーの部分を持たないでください。カバーが外れて落下するおそれがあります。
持ち上げる場合は、パソコン本体右側面の PC カードスロット下側のカバー中央部分と、パソコン本体左側面のコネクタカバー下側の中央部分の 2ヶ所を、両側から両手でつかんで持ち上げるようにしてください。

使用および設置に適さない場所

誤動作、故障、劣化、受信障害の原因となるため、次のような場所ではお使いにならないでください。

POINT

- 本製品の使用環境は温度 10 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 90% RH（非動作時）です。
- 結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。
  温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動したときに起こります。
  結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。

電波の影響を受ける環境でお使いになる場合

次のような環境でお使いになると、周囲からの電波の影響を受けて、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスがうまく動作しないことがあります。

- パソコン本体をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に載せている
- パソコン本体と、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの間に電気・電子機器や金属製のものを置いている
- 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している
- 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある（このパソコンを複数台でお使いの場合、無線局の近隣でお使いの場合、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合など）

このような場合には、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの通信周波数／ ID 設定値を変更すると、動作する場合もあります。詳しくは、「通信周波数／ ID 設定値について」（••▶P.73）をご覧ください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

重 要

市販クリーナーは以下の成分を含んだものがあり、画面の表面コーティングやカバーを傷つける場合がありますので、ご使用を避けてください。
- アルカリ性成分を含んだもの
- 界面活性剤を含んだもの
- アルコール成分を含んだもの
- シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
- 研磨剤を含むもの
- 化学ぞうきん

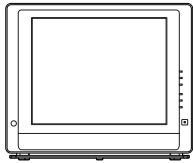
詳しくは、(サービスアシスタント)のトップ画面→「FMV の使い方」→「お手入れ」→「FMV のお手入れ」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ（P.32 ～ P.42）が終了してからご利用ください。

3 必要なものを揃える

必要なものをあらかじめ揃えてから、第２章へ進みましょう。

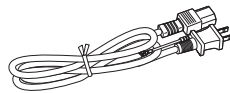
パソコン本体の箱に入っています

注 ：イラストは実際と若干異なる場合があります。

■パソコン本体

■ワイヤレスキーボード
単３アルカリ乾電池×２

■パームレスト

■ワイヤレスマウス
単４アルカリ乾電池×２

■電源ケーブル

■保証書

梱包箱に貼り付けられています。

次のものもあらかじめ揃えてください。

■リモコン

（イラストは機種や状況により異なります）

■単３マンガン乾電池×２

■アンテナケーブル（別売）

重 要

アンテナケーブル類は添付していません

アンテナケーブル、変換コネクタ、V/U ミキサ、中継コネクタなどは添付していません。市販のものをご購入ください。また、ケーブルは適切な長さのものをご購入ください。
アンテナ設置については、最寄りの電器店にお問い合わせください。

ネジ式の F 型コネクタプラグをお使いください

アンテナケーブルとパソコンの接続には、ノイズの影響を受けにくいネジ式の F 型コネクタプラグのご使用をお勧めします。F 型コネクタプラグの取り付け方については、F 型コネクタプラグのマニュアルをご覧になるか、電器店にお問い合わせください。

F 型コネクタプラグ

F 型コネクタプラグ以外で接続する場合は、次の点にご注意ください

・コネクタの形状（大きさ）によっては、パソコン本体に干渉して接続できない場合があります。
　また、S ビデオケーブルなどの他のケーブルを同時に接続できない場合があります。
・ネジ式の F 型コネクタプラグに比べノイズの影響を受けやすいため、映像が乱れることがあります。

続いて、パソコンの接続をしましょう（••▶P.23）。

第 2 章

接続する

パソコンの接続について説明しています。

1　アンテナケーブルを接続する 24
2　キーボード／マウスを準備する 26
3　リモコンを準備する 27
4　電源ケーブルを接続する 28

注意

・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

1 アンテナケーブルを接続する

ここでは、パソコン本体にアンテナケーブルを接続する方法について説明します。

⚠警告

・近くで落雷のおそれがある場合は、すべての接続作業を中止してください。
落雷による感電のおそれがあります。

重 要

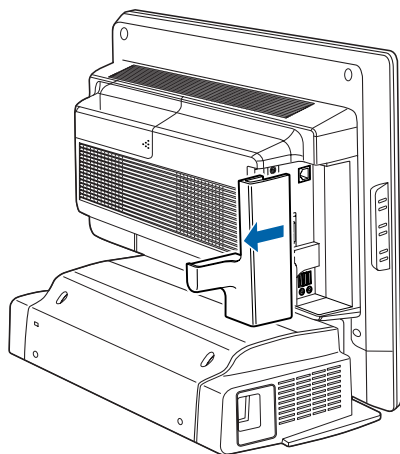
アンテナケーブル類は添付していません

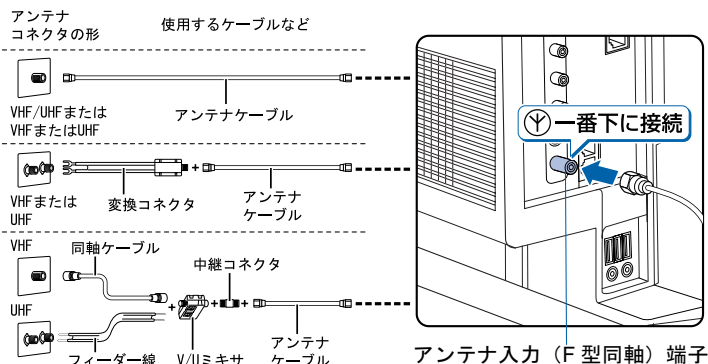
アンテナケーブル、変換コネクタ、V/U ミキサ、中継コネクタなどは添付していません。市販のものをご購入ください。また、ケーブルは適切な長さのものをご購入ください。
アンテナ設置については、最寄りの電器店にお問い合わせください。

アンテナを接続するときは本製品のすべての電源を切ってください

本製品のすべての電源を切ってから、アンテナケーブルを接続してください。

1 **本製品のすべての電源を切ります。**

2 **パソコン本体左側面のカバーを取り外します。**

3 アンテナケーブルをパソコン本体に接続します。

接続のしかたは、壁のアンテナコネクタの形や、お使いになるケーブルによって異なります。下の図から最も近いものを選択し、必要なケーブル類を接続してください。

重 要

ネジ式の F 型コネクタプラグをお使いください

アンテナケーブルとパソコンの接続には、ノイズの影響を受けにくいネジ式の F 型コネクタプラグのご使用をお勧めします。F 型コネクタプラグの取り付け方については、F 型コネクタプラグのマニュアルをご覧になるか、電器店にお問い合わせください。

F 型コネクタプラグ

F 型コネクタプラグ以外で接続する場合は、次の点にご注意ください

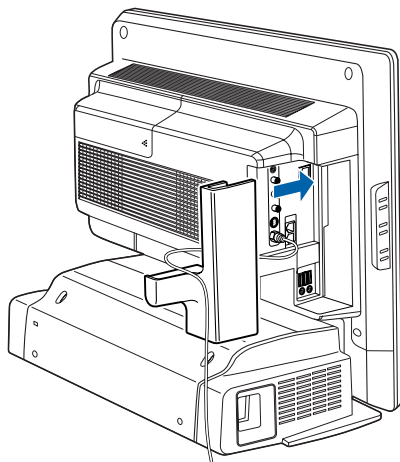
・コネクタの形状（大きさ）によっては、パソコン本体に干渉して接続できない場合があります。
　また、S ビデオケーブルなどの他のケーブルを同時に接続できない場合があります。

・ネジ式の F 型コネクタプラグに比べノイズの影響を受けやすいため、映像が乱れることがあります。

アンテナケーブルを接続するときは

アンテナケーブルを接続するときは、コネクタの中心にある金属芯を折らないよう、注意してください。

4 手順 2 で外したカバーを取り付け、アンテナケーブルを外に出します。

カバーを取り付ける際、ケーブルをはさまないようにしてください。

続いて、キーボード／マウスを準備しましょう（▶P.26）。

2 キーボード／マウスを準備する

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスに添付のアルカリ乾電池を入れます。

⚠警告

発　火

・乾電池を入れる場合、＋（プラス）と－（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

重要

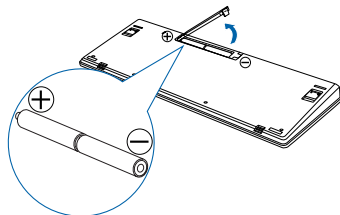
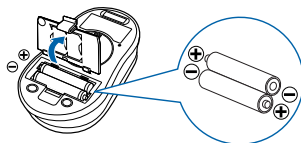
ご購入時に添付されている乾電池はお早めに交換してください

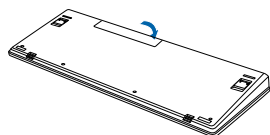
ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。詳しくは、「乾電池について」（••▶P.71）をご覧ください。

このパソコンを複数台お使いの場合

このパソコン複数台を、近くで同時に操作すると、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが混信し、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）が正常に行われない場合があります。
Windows のセットアップは 1 台ずつ行い、セットアップ終了後に「通信周波数／ ID 設定値について」（••▶P.73）をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数／ ID 設定値を変更してください。

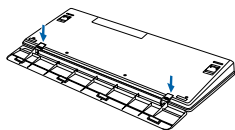
1 **ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを裏返して電池ボックスのふたを開け、添付のアルカリ乾電池を入れます。**

■ワイヤレスキーボード

■ワイヤレスマウス

2 **電池ボックスのふたを閉めます。**

■ワイヤレスキーボード

■ワイヤレスマウス

POINT

ワイヤレスキーボードには、添付のパームレストを取り付けることができます

ワイヤレスキーボードを裏返して、ワイヤレスキーボードにパームレストを取り付けます。

パームレストを取り付けた状態で、パームレストに無理な力をかけないでください。取り付け部分が破損する場合があります。

続いて、リモコンを準備しましょう（••▶P.27）。

3 リモコンを準備する

ここでは、リモコンを使用するための準備について説明します。

リモコンに乾電池を入れる

⚠警告

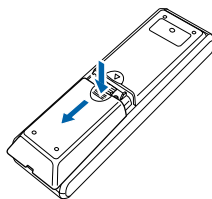
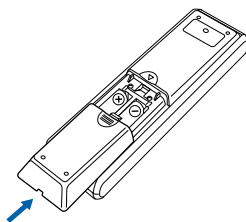
・乾電池を入れる場合、＋（プラス）と－（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池をお使いになる際は、「安全上のご注意」→「乾電池について」（••▶P.11）も必ずご覧ください。

重 要

ご購入時に添付されている乾電池はお早めに交換してください

ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。

1 **リモコンを裏返して電池ボックスのふたを開け、添付のマンガン乾電池を入れます。**

2 **電池ボックスのふたを閉めます。**

続いて、電源ケーブルを接続しましょう（••▶P.28）。

4 電源ケーブルを接続する

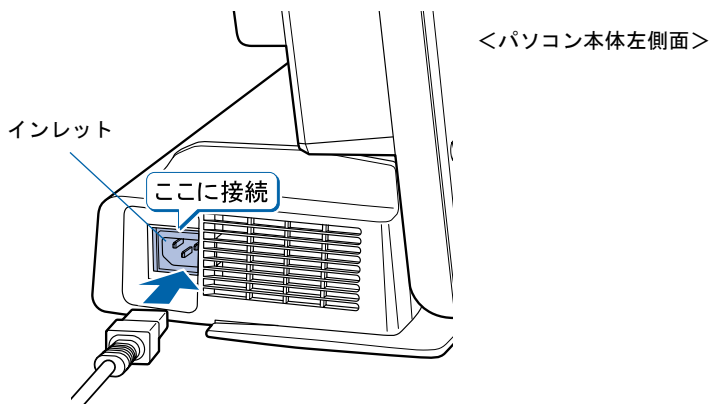
パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

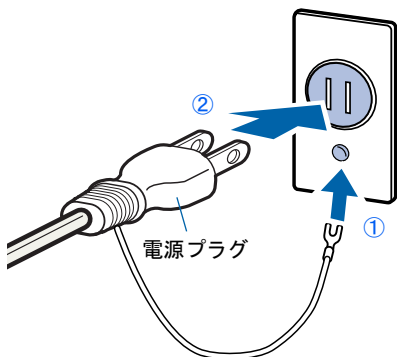
重 要

確認してください

ここまでに接続したすべてのケーブルが、正しく接続されているか確認してください。

1 電源ケーブルを、パソコン本体に接続します。

コネクタの向きに注意して差し込んでください。

2 電源ケーブルを、コンセントに差し込みます。

アース線をコンセントのアースネジに差し込んで、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

重 要

アース線について

安全のため、電源ケーブルにはアース線がついています。コンセントに電源プラグを差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。
電源ケーブルを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。

続いて、電源を入れましょう（••▶P.30）。

第 3 章

パソコンを準備する

初めてパソコンの電源を入れるときに行う準備について説明しています。このマニュアルの手順どおりに進めてください。

1 初めて電源を入れる 30
2 電源の切り方と入れ方 43
3 インターネットを始めるための準備をする 47
4 ユーザー登録をする 50
5 準備が完了したら 52

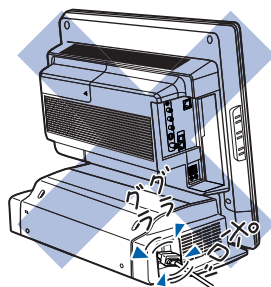
1 初めて電源を入れる

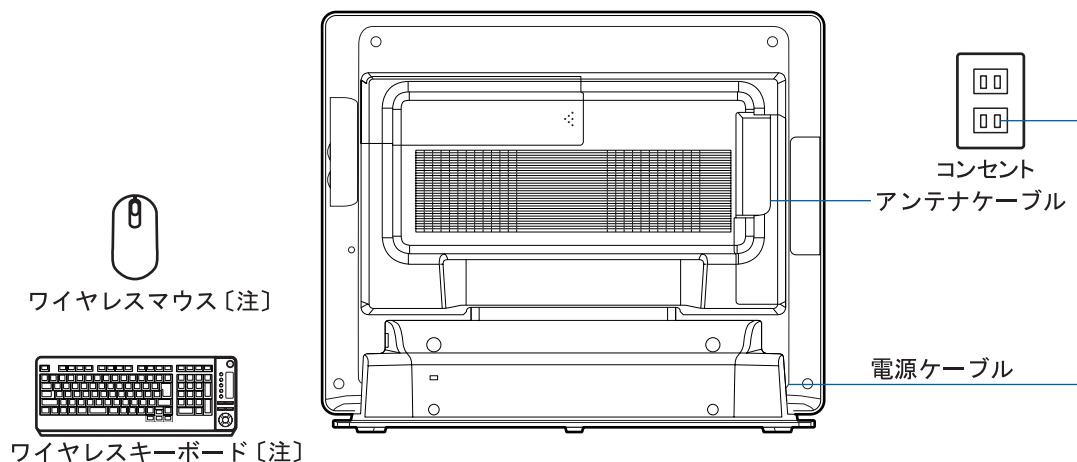
接続を確認する

電源を入れる前に、下のイラストをご覧になり、正しく接続できているか確認してください。

重 要

ケーブルはグラグラしていませんか？
奥までしっかりと差し込まれているか、もう一度お確かめください。

セットアップ前には、LAN ケーブル、モジュラーケーブル、ターミナルアダプタ（TA）を接続しないでください
LAN ケーブル、モジュラーケーブル、ターミナルアダプタ（TA）などが接続されていると、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）の途中でパソコンが動かなくなってしまうことがあります。Windows のセットアップが終わった後で、接続してください。
LAN ケーブルの接続方法については、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「LAN を使う」をご覧ください。

セットアップ前には周辺機器は接続しないでください
プリンタやメモリなどの周辺機器が接続されていると、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）の途中でパソコンが動かなくなってしまうことがあります。Windows のセットアップが終わった後で、周辺機器のマニュアルをご覧になり、接続してください。

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて
ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの操作範囲はディスプレイから約 1m 以内です。使用環境によっては、操作範囲が短くなったり、他のワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスと混信し正常に動作しなくなるおそれがあります。その場合は、Windows のセットアップ終了後、「通信周波数／ ID 設定値について」（→P.73）をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数／ ID 設定値を変更すると改善されることがあります。

注 ：添付の乾電池が正しく入っているか確認してください。

初めて電源を入れる～ Windows のセットアップ

初めて電源を入れるときは、Windows のセットアップという作業が必要です。Windows のセットアップは、初めてパソコンの電源を入れるときに、1 回だけ行う操作です。このマニュアルの手順どおりに進めてください。この Windows のセットアップが終わらないと、パソコンは使えるようになりません。

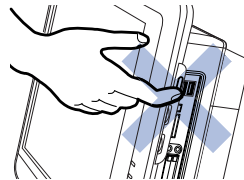
セットアップ時の注意事項

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの注意事項

このパソコン複数台を、近くで同時に操作すると、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが混信し、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）が正常に行われない場合があります。

Windows のセットアップは 1 台ずつ行い、セットアップ終了後に「通信周波数／ ID 設定値について」（••▶P.73）をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数／ ID 設定値を変更してください。

セットアップが終わるまで電源を切らないでください

Windows のセットアップを途中で止めると、Windows が使えなくなる場合があります。セットアップの最後の手順が終わるまでは、電源を切らないでください。もし電源を切って Windows が使えなくなった場合、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「トラブルかなと思ったら」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。

セットアップが終わるまでリモコンは使用しないでください

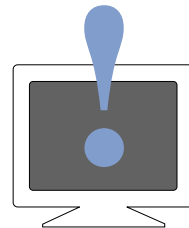
Windows のセットアップの途中でリモコンを操作すると、Windows のセットアップが途中で終了してしまうことがあります。セットアップが終わるまで、リモコンは使用しないでください。もし電源が切れて Windows が使えなくなった場合には、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「トラブルかなと思ったら」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。

画面が乱れることがあります

電源を入れてから「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されるまでの間、一瞬画面が乱れることがあります。故障ではありませんのでそのままお使いください。

しばらく操作しないと

電源を入れた状態でしばらく（約 10 分間）操作しないと、動画（スクリーンセーバー）が表示されたり、画面が真っ暗になったりすることがありますが、電源が切れたわけではありません。これはパソコンの省電力機能が働いている状態です。

マウスを動かしたり、キーボードの【↑】【↓】【←】【→】や【Shift】のどれかを押したりすると、元の画面に戻ります。

Windows のセットアップを始めましょう。

「Windows のセットアップ」とは、次の 3 つの作業のことです。合計 24 手順あります。

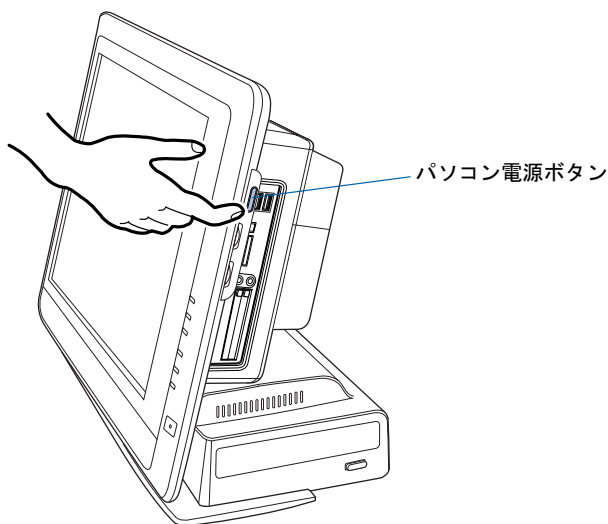
1 「Windows の設定」▶手順 1 〜 10

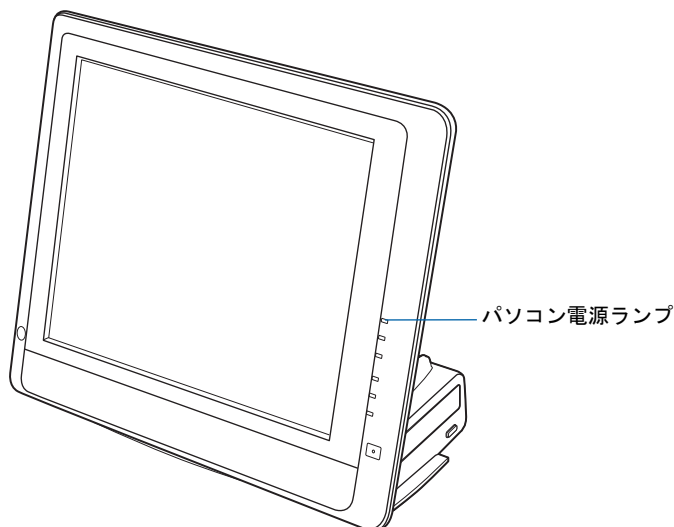
2 「必ず実行してください」の実行▶手順 11 〜 19

3 「サービスアシスタントの起動・終了方法」▶手順 20 〜 24

ページの右端にセットアップの進行状況を示していますので参考にしてください。

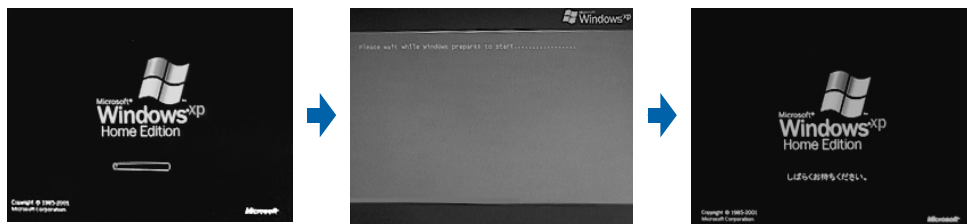
Windows の設定

1 パソコン電源ボタンを押します。

2 パソコン電源ランプが緑色に点灯することを確認します。

電源が入ると、画面にさまざまな文字などが表示されます。

画面に何も表示されない場合は

もう一度パソコン電源ボタンを押してみてください。

3 そのまましばらくお待ちください

電源を入れると、次のような画面が表示されます。

パソコンが再起動します。この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。

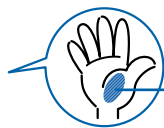
手順 5 の画面（••▶P.34）が表示されるまで、電源を切らずにそのままお待ちください。

途中で電源を切ると、Windows が使えなくなる場合があります。

もし電源を切って Windows が使えなくなった場合は、『FMV 活用ガイド』→「トラブルかなと思ったら」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。

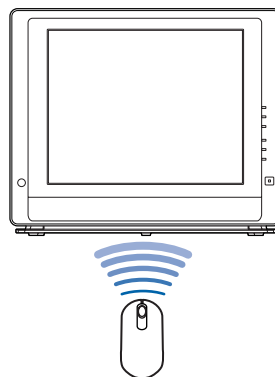
4 マウスを用意します。

マウスを机の上などの平らな場所に置き、左右のボタンに指がかかるように手を軽く乗せます。

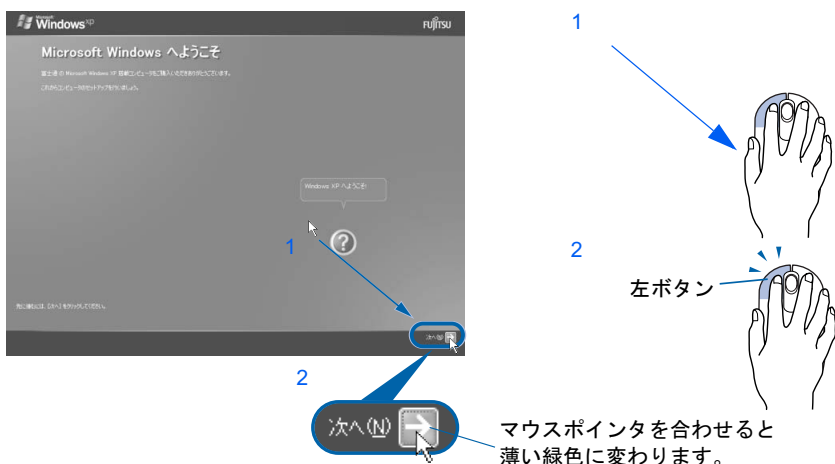
手のひらの下の部分が、軽く机に触れるようにしてください。

POINT

マウスの向きに注意！

ワイヤレスマウスはボタンがあるほうをパソコン本体に向けて使います。

電源を切らずに次のページへ

5 1 画面上の を「次へ」の右の に合わせ、2 マウスの左ボタンを軽くカチッと 1 回押して、すぐ離します。

マウスを平らな場所に置いたまま、すべらせると、マウスの動きに合わせて、 (マウスポインタ) が画面の上を動きます。

2 の操作のことを、「クリック」といいます。

POINT

これ以降は機種により画面が異なる場合があります。

このマニュアルと違う画面が表示された場合は、画面の指示に従い、手順 9 まで進めてください。

キーボードやマウスで操作できない場合

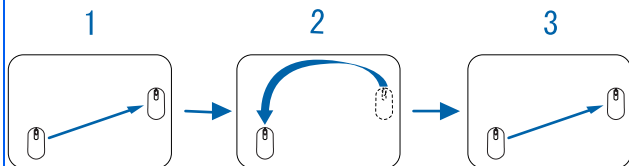
キーボードやマウスが操作できなくなった場合は、「使用上のお願い」(▶P.17) をご覧になり、パソコンを設置している環境を確認してください。それでも操作できない場合は、次の手順に従ってパソコン電源を入れ直してください。

1. パソコン電源ボタン (▶P.58) を 4 秒以上押したままにして、強制的に電源を切ります。
2. ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスに乾電池が正しく入っているか確認します (▶P.26)。
3. もう一度パソコン電源ボタンを押します (4 秒以上押さないでください)。

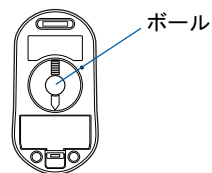
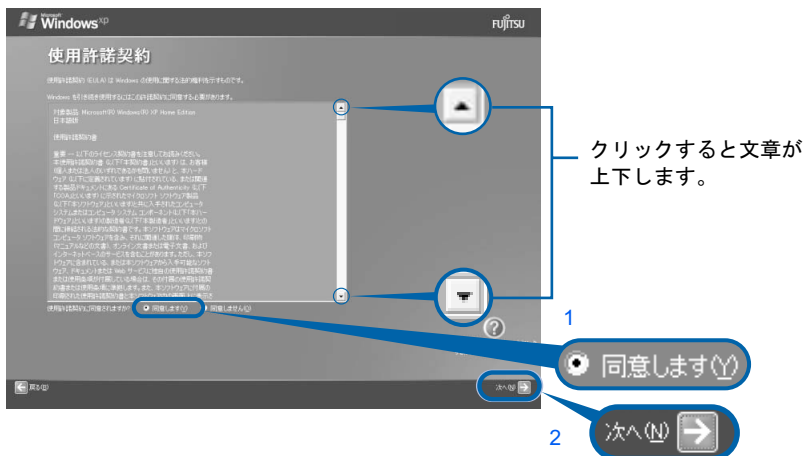
マウスのしくみ

マウスには裏面にボールが付いています。マウスを机の上ですべらせると、ボールが回転して、画面上のマウスポインタが動くようになっています。

マウスが机の端まできたら

1 マウスが机の端まできたら、2 いったんマウスを持ち上げて、もう一度別の位置から動かしてください。マウスを持ち上げている間は、マウスポインタは動きません。

マウスを持ち上げている間は
マウスポインタは動きません。

ボタンは軽く押すだけで OK!

力を入れて押す必要はありません。マウスのボタンはカチッと 1 回押したら、すぐ指を離すようにします。

6 1 Windows の使用許諾契約書の内容をご覧になり、ご同意いただけるときは「同意します」をクリックして◉にし、2「次へ」の右の ➡ をクリックします。

次の画面が表示されるまで、少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。

重 要

「同意しません」をクリックした場合

「続ける前に ...」という画面が表示されます。使用許諾契約書にご同意いただけないと、このパソコンはお使いになれません。
手順 6 の画面に戻るには、表示された画面で「戻る」の左の ⬅ をクリックしてください。

7 「次へ」の右の ➡ をクリックします。

表示されているコンピュータの名前は、ここでは変更しません。コンピュータの名前は後から変更できます。詳しくは、Windows のヘルプを「コンピュータ名」で検索し、「コンピュータ名を変更する」をご覧ください。

次の画面が表示されるまでお待ちください。

8 「次へ」の右の をクリックします。

POINT

こんな画面が出た！

「インターネットに接続する方法を指定してください」という画面が表示された場合は、「省略」の右の をクリックします。
インターネット接続の設定は、セットアップが最後まで終わってから、「インターネットを始めるための準備をする」（••▶P.47）をご覧ください。

9 1「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックして にし、2「次へ」の右の をクリックします。

POINT

「はい、今すぐユーザー登録します」を選択して進んでしまった場合

「ユーザー登録情報を入力してください」という画面で「戻る」の左の をクリックして、手順9からやり直します。

「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」という画面が表示された場合

「いいえ、今回はインターネットに接続しません」をクリックして にし、「次へ」の右の をクリックします。

10 「完了」の右の をクリックします。

パソコンが再起動します。
次の画面が表示されるまで、少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。

POINT

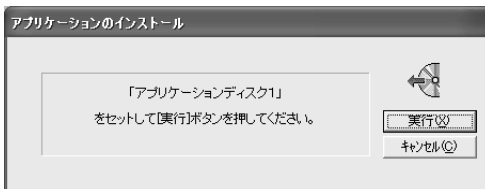
Windows 起動時、または終了時の画面について

Windows 起動時、または終了時に、画面左上が白くぼやけて見えるときがあります。
これは画面のデザインであり故障ではありません。

「FMV」ロゴ入りの壁紙が表示された画面について

「FMV」ロゴ入りの壁紙が表示された画面では、画面がにじんだように見えるときがあります。
これは壁紙のデザインであり故障ではありません。

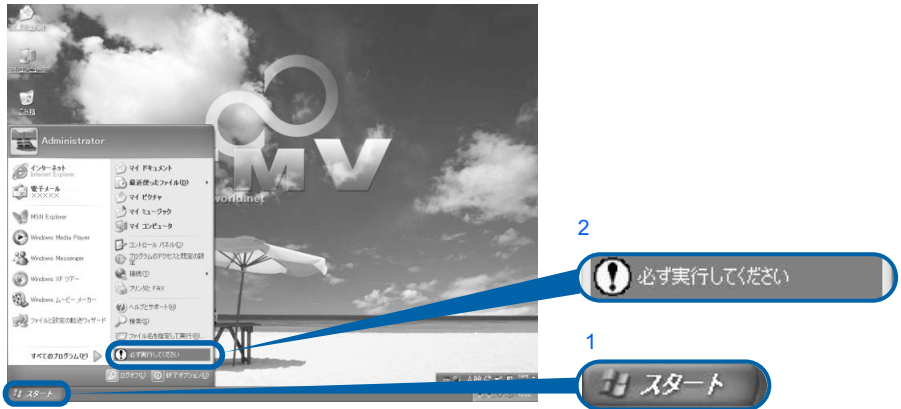
「「アプリケーションディスク 1」をセットして［実行］ボタンを押してください。」というメッセージが表示された場合

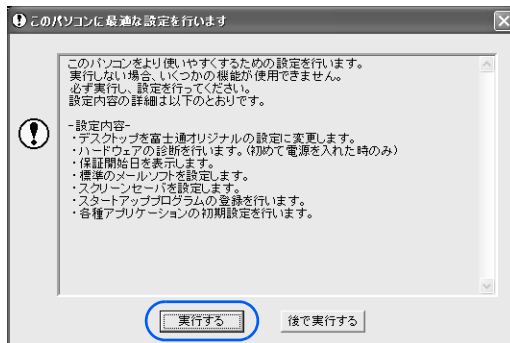
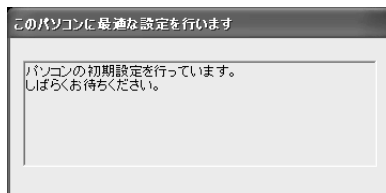
ご購入後初めて電源を入れて Windows のセットアップを行っている場合は、このメッセージは表示されません。
メッセージが表示されない場合は、そのまま次の手順にお進みください。
『ＦＭＶ 活用ガイド』をご覧になりリカバリ作業を行っている場合は、再起動後に「「アプリケーションディスク 1」をセットして［実行］ボタンを押してください。」というメッセージが表示されます。

メッセージが表示された後の手順については、もう一度『ＦＭＶ 活用ガイド』をご覧ください。

電源を切らずに次のページへ

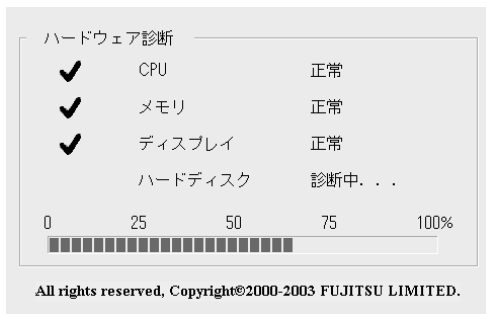
「必ず実行してください」の実行

11 **1「スタート」ボタン→ 2 必ず実行してください の順にクリックします。**

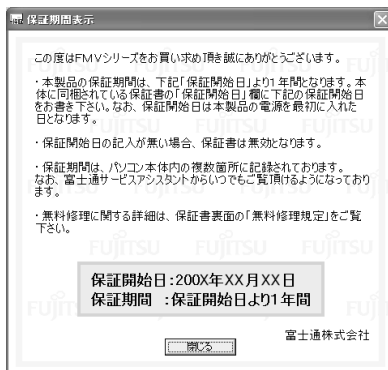
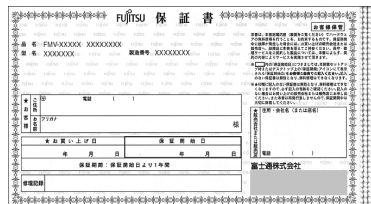
必ず実行してください は、パソコンの初期設定を行うプログラムです。以降の手順は最後まで必ず実行してください。実行しないと、いくつかの機能がお使いになれません。

（これ以降の画面は状況により異なります）

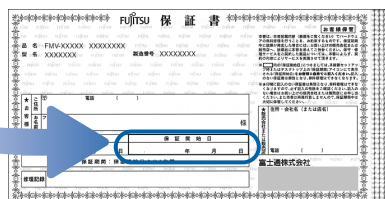
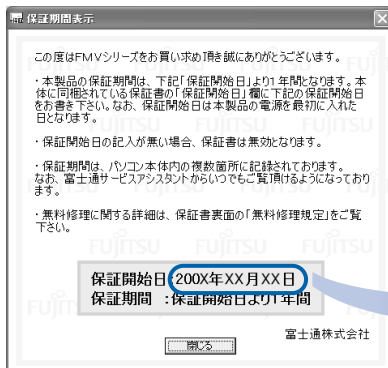
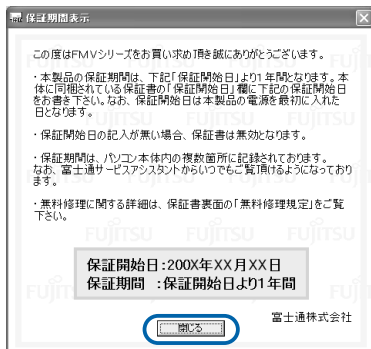
12 **「実行する」をクリックします。**

パソコンの初期設定が始まり、次の画面が表示されます。手順 13 の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

13 ハードウェア診断が始まり、次の画面が表示されます。手順 14 の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

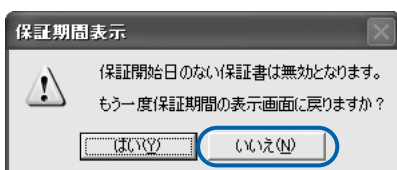
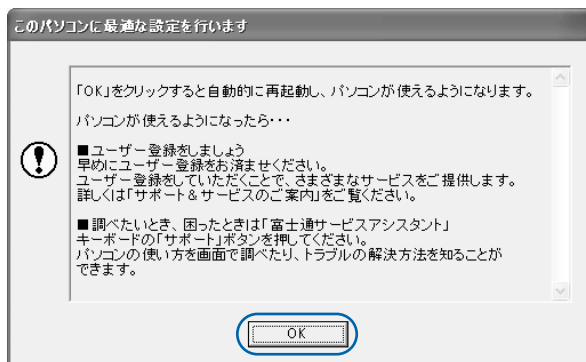
途中、ディスプレイを診断する画面なども表示されます。

重要

ハードウェア不良の画面が表示された場合

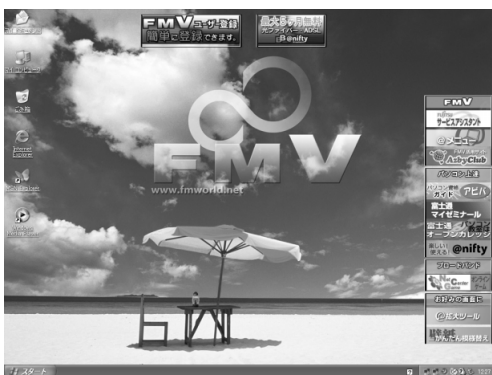
画面の指示に従ってください。

14 この画面が表示されたら、保証書を用意します。

保証書は梱包箱に貼り付けられています。

15 画面に表示された保証開始日を、保証書に書き写します。

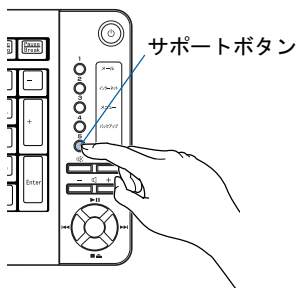
保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります（なお、保証開始日は本製品の電源を最初に入れた日になります）。
保証書は大切に保管してください。

16 「閉じる」をクリックします。

17 次の手順に進んで良ければ「いいえ」をクリックします。

もう一度保証期間を確認したいときは「はい」をクリックしてください。

18 「OK」をクリックします。

（機種や状況により一部表示が異なります）

画面がいったん暗くなり、パソコンの再起動が始まります。
次の画面が表示されるまで少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。

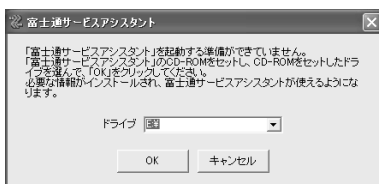
19 画面が表示されたことを確認します。

サービスアシスタントの起動・終了方法

サービスアシスタントは、パソコンの操作でわからないことがあったとき、困ったときにご覧ください。ここでは、サービスアシスタントを一度起動・終了してみます。

20 キーボードの「サポート」ボタンを押します。

（イラストは機種や状況により異なります）

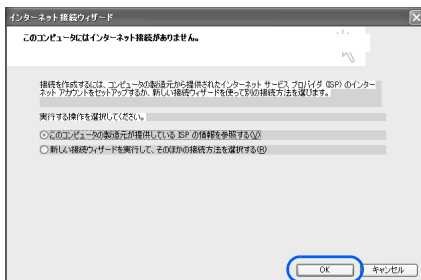
POINT

「「富士通サービスアシスタント」を起動する準備ができていません。」というメッセージが表示されたときは

このパソコンに添付されている「富士通サービスアシスタント」の CD-ROM をセットし、画面のメッセージに従ってインストールしてください。

機種を選択する画面が表示されたときは

別紙などで特に指示がない限り、お使いの機種名（品名）を選んでください。
機種名の調べ方は「機種名を確認してください」（••▶P.16）をご覧ください。

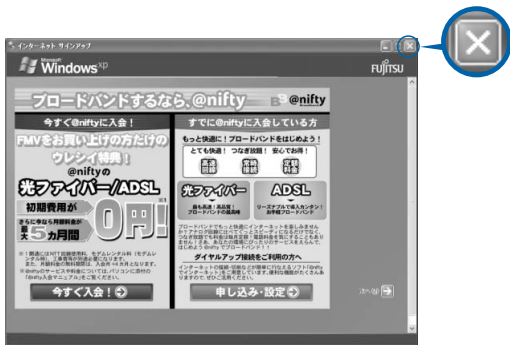
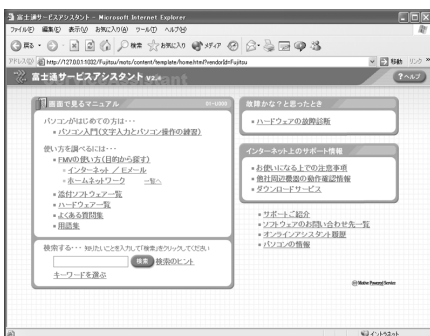
21 次の画面が表示されたら、「OK」をクリックします。

インターネット接続の設定は後で行います。ここではインターネットに接続しません。

POINT

最新のサポート情報をインターネットでご案内しています

サービスアシスタントには、インターネットを使って最新のサポート情報を表示する機能があります。この機能はインターネット接続の設定を行うと利用できるようになります。
セットアップが最後まで終ってから「インターネットを始めるための準備をする」（••▶P.47）をご覧ください。

電源を切らずに次のページへ

22 ウィンドウ右上にある⊠をクリックします。

23 サービスアシスタントが起動します。

これがサービスアシスタントのトップ画面です。「ヘルプ」をクリックすると詳しい使い方がわかります。

24 続けてセットアップを行うので、サービスアシスタントのトップ画面で⊠をクリックし、サービスアシスタントを終了します。

POINT

これ以降、サービスアシスタントを起動するには

キーボードの「サポート」ボタンを押してください。手順 21 ～ 22 の画面は、サービスアシスタントを初めて起動したときだけ表示されます。

これで Windows のセットアップは終わりです。

POINT

ソフトウェアを起動するには

ソフトウェアは、@メニューから起動してください（@メニューには、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」から起動できないソフトウェアも登録されています）。
詳しくは、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「FMV のおすすめ活用法」→「多彩なソフトウェアで楽しむ」→「パソコンでやってみたいことを「@ メニュー」で調べる」をご覧ください。

続いて、電源の切り方と入れ方を覚えましょう（••▶P.43）。

2 電源の切り方と入れ方

電源の切り方と入れ方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。

⚠注意

・CD/DVD などを取り出す場合は、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

3

電源を切る

1 それまで行っていた作業を終了します。

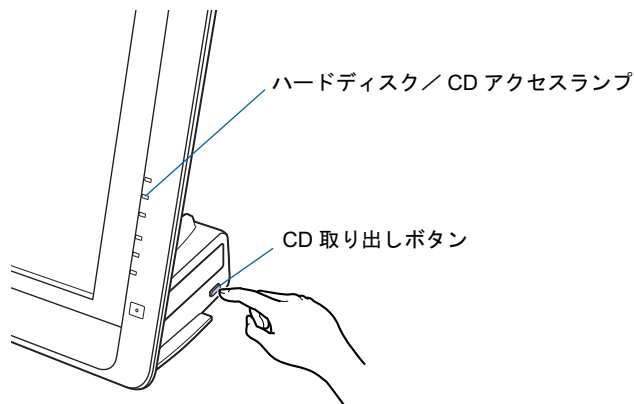
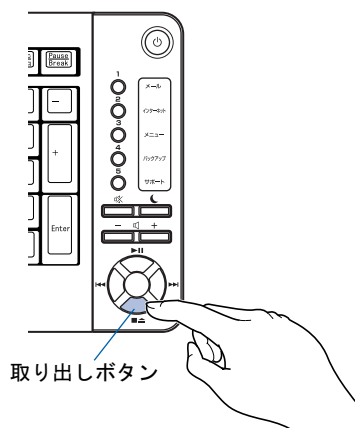
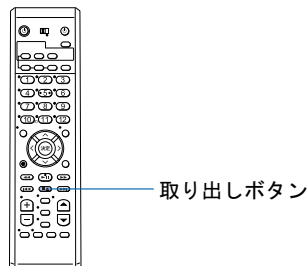
ソフトウェアを起動している場合は、作業中のデータを保存し、ソフトウェアを終了します。
例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

POINT

ソフトウェアを終了しなかった場合

ソフトウェアを起動したままでもこれ以降の操作を進められますが、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめソフトウェアを終了しておくことをお勧めします。

2 CD、DVD などがセットされていたら、CD 取り出しボタンの中央を押して取り出します。

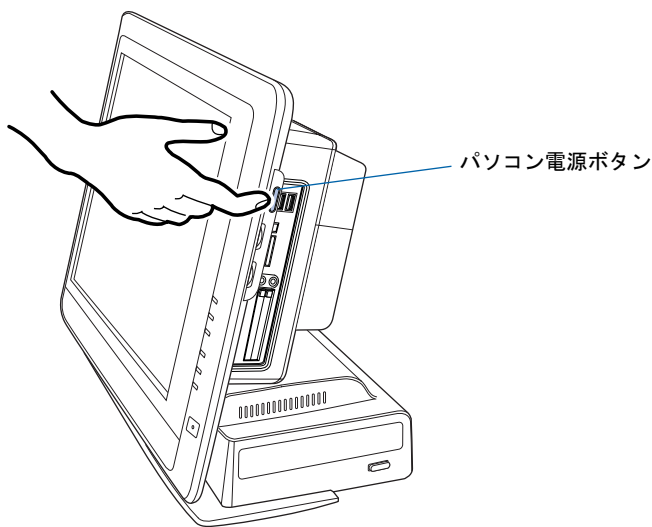
■パソコン本体の場合

■ワイヤレスキーボードの場合　■リモコンの場合

（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

CD や DVD などを入れたままだと

パソコンの電源を切ってしまうと、CD や DVD などは取り出せません。

3 パソコン電源ボタンを押します。

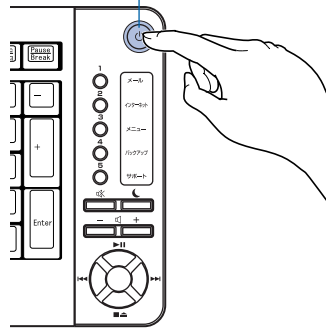
しばらくすると Windows が終了し、パソコン電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン電源ランプが消えます）。

重要

パソコン電源ボタンは押し続けないでください

パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、Windows などの正常な終了処理ができないまま、強制的にパソコン電源が切れてしまいます。

POINT

電源を切るときは

・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでもパソコン電源を切ることができます。
・リモコンの電源ボタンでもパソコン電源を切ることができます。
　リモコンの電源ボタンは約 1 秒間押してください。

（イラストは機種や状況により異なります）

POINT

次の方法でもパソコン電源を切ることができます。

1. 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
2. 「電源を切る」をクリックします。
しばらくすると Windows が終了し、パソコン電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン電源ランプが消えます）。

パソコン電源が切れない場合

パソコンが動かなくなり（マウスやキーボードが操作できないなど）、パソコン電源が切れないときは、次のように操作してください。
【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を押してソフトウェアを強制終了し、その後でパソコン電源を切ってください。ソフトウェアの強制終了については、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「トラブルかなと思ったら」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「Q 操作中に画面が動かなくなった」をご覧ください。
強制終了できないときは、パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的にパソコン電源を切ってください。
パソコン電源を切った後、パソコン電源ランプが消えている（パソコン電源が切れている）ことを確認してください。パソコン電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、スタンバイ状態になっているためパソコン電源が切れていません。もう一度パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコン電源を切ってください。

4 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

続いて、電源の入れ方を覚えましょう（▶P.46）。

電源を入れる

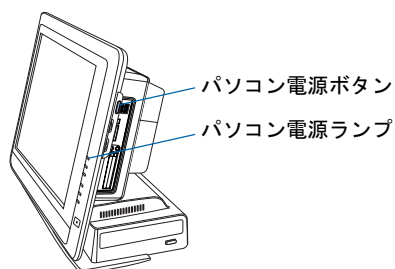
重 要

パソコン電源を入れるときの注意

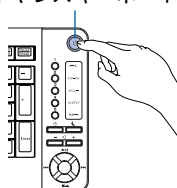
・パソコン電源を切った後は、次にパソコン電源を入れ直すまで 10 秒ほどお待ちください。

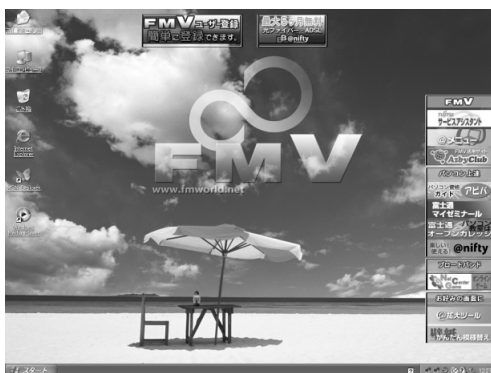
1 パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 パソコン電源ボタンを押します。

パソコン電源ランプが点灯し、画面にさまざまな文字などが表示されます。そのまま、しばらくお待ちください。

POINT

電源を入れるときは

・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでもパソコン電源を入れることができます。
・リモコンの電源ボタンでもパソコン電源を入れることができます。
　リモコンの電源ボタンは約 1 秒間押してください。

（イラストは機種や状況により異なります）

3 このような画面が表示されたことを確認します。

（画面は機種や状況により異なります）

Windows が起動しない場合

パソコン電源を入れても Windows が起動しないときは、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「トラブルかなと思ったら」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「Q パソコンが起動しない、画面に何も映らない［DESKPOWER］」をご覧ください。

3 インターネットを始めるための準備をする

このパソコンでインターネットやオンラインユーザー登録を利用するためには、インターネットに接続するための準備が必要です。
なお、初めてインターネットに接続する前には、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るためのセキュリティ対策を必ず行ってください。

初めてインターネットに接続する前のセキュリティ対策

ここでは、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守る対策について紹介します。初めてインターネットに接続する前に必ずお読みください。
お客様のパソコンは、お客様自身の責任でウイルスなどから守っていただく必要があります。マニュアルで紹介する対策を参考にし、Windows やソフトウェアなどを最新の状態に保つなど常にセキュリティに気を配って、より安心してパソコンを使えるようにしましょう。

セキュリティ対策の流れについて

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性（ぜいじゃくせい：一般的に、コンピュータやネットワークにおけるセキュリティ上の弱点のこと）が新たに見つかったり、悪質なウイルスが出現したりしている可能性があります。
最近では、インターネットに接続するだけで感染するウイルスなどもありますので、モデムや LAN などの通信回線に接続してインターネットやオンラインユーザー登録をはじめる前に、次の手順に従って Windows やソフトウェアなどを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。
ここでは、セキュリティ対策の流れについて説明します。

Step1　インターネットに接続する前に「インターネット接続ファイアウォール（ICF）」を有効にする

何の対策もせずインターネットに接続してしまうと、ウイルスに感染するなどの危険があります。Windows XP には「インターネット接続ファイアウォール（ICF）」という標準機能があり、インターネットに接続するパソコンを保護することができます。
まず、「インターネット接続ファイアウォール」を有効にしましょう。
詳しくは、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「パソコンは自分自身で守ろう」→「ウイルスや不正アクセスからパソコンを守る」→「Windows XP のインターネット接続ファイアウォールを利用する」をご覧ください。

Step2　インターネットに接続する

Step3 「Windows Update」を実行する

「Windows Update」は、Windows を常に最新の状態に整えるためのマイクロソフト社が提供するサポート機能です。

「Windows Update」を実行すると、Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新・修正できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策（パッチをあてると言います）もされます。

ここでは、「Windows Update」の中の「重要な更新」をインストールします。

詳しくは、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「パソコンは自分自身で守ろう」→「ウイルスや不正アクセスからパソコンを守る」→「「Windows Update」を実行する」をご覧ください。

Step4 「インターネット接続ファイアウォール（ICF）」を無効に戻す

「インターネット接続ファイアウォール（ICF）」を有効にしておくと、より安全性が高まりますが、一部のソフトウェアの機能が制限される可能性もあります。

パソコンを最新の状態にしたので、ここでは無効に戻します。

詳しくは、『ＦＭＶ 活用ガイド』→「パソコンは自分自身で守ろう」→「ウイルスや不正アクセスからパソコンを守る」→「Windows XP のインターネット接続ファイアウォールを利用する」をご覧ください。

実際にセキュリティ対策をするには

「セキュリティ対策の流れについて」で説明した内容は、インターネットに接続するための設定をする中で、同時に行います。

次の「インターネットに接続するには」（▶P.49）をご覧ください。

インターネットに接続するには

インターネットの接続方法には、一般的に次の方法があります。

・一般の電話回線（アナログ）
・ISDN
・携帯電話・PHS
・ADSL
・ケーブルテレビ（CATV）
・光ファイバー（FTTH）

それぞれの設定方法については、（サービスアシスタント）のトップ画面→「インターネット／Eメール」→「接続の設定」をご覧ください。

設定の手順の中で「初めてインターネットに接続する前のセキュリティ対策」（▶P.47）で説明したセキュリティ対策の方法も説明されています。

また、各プロバイダや回線事業者から提供される書類や、各機器のマニュアルを必ずご覧ください。

重要

ブロードバンド・インターネットをご利用の方は、まだケーブルをつながないでください

ブロードバンド・インターネットでは、多くの場合、インターネット用の回線とパソコンをケーブルで接続するだけで、インターネットに接続されてしまいます。
ケーブル類の接続を完了する前に、必ず「初めてインターネットに接続する前のセキュリティ対策」（▶P.47）を参考にして、「インターネット接続ファイアウォール（ICF）」を有効にしてください。

内蔵モデムで長時間インターネットに接続する場合

ソフトウェアを起動したままインターネットに長時間接続していると、パソコンの CPU に高い負荷がかかり、内蔵モデムでの通信が切断される場合があります。このような場合は、ブラウザやメールソフト以外のソフトウェアを終了してからもう一度インターネットに接続してください。

インターネットに接続したら

今後も、いつ新たなウイルスなどが出現するかわかりません。「Windows Update」を日常的に行うなどの日々のセキュリティ対策を心がけましょう。

セキュリティソフト「Norton Internet Security」を使う

このパソコンには、「Norton Internet Security」というセキュリティソフトが用意されています。「Norton Internet Security」を使うと、パソコンをウイルスや不正アクセスから守ることができます。使うためには、「@メニュー」からの起動が必要です。

「Norton Internet Security」については、『FMV 活用ガイド』→「パソコンは自分自身で守ろう」→「ウイルスや不正アクセスからパソコンを守る」→「セキュリティソフトを使う」をご覧ください。

4 ユーザー登録をする

インターネットの接続が終わったら、パソコンの画面上でユーザー登録を行います。
ユーザー登録とは、FMV ユーザーとしてお客様の情報、およびご購入された FMV の機種情報を弊社に登録していただくことを言います。
詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

ユーザー登録をするとご利用になれるサービス

ユーザー登録をすると、自動的に「FMV ユーザーズクラブ AzbyClub（アズビィクラブ）」の会員としても登録され、次のようなサービスをご利用いただけます。
AzbyClub とは、お客様に FMV を快適にご利用いただくための会員組織です。入会金、年会費は無料です（2 年目以降も無料）。

■ FMV 活用サイト AzbyClub ホームページ

お客様がお使いのパソコンに関する最新情報や、活用情報が満載です。また、会員向けのショッピングサービスやお得なキャンペーン情報もご紹介します。
http://azby.fmworld.net/

■ 技術相談窓口 Azby テクニカルセンター

AzbyClub 会員専用の技術相談窓口です。電話や E メールによるサポートをご利用いただけます。サポートツール「サービスアシスタント」、紙のマニュアル、AzbyClub ホームページで確認しても、問題が解決できない場合、技術相談を受けられます。

■ サービスアシスタント

サポートツール「サービスアシスタント」で、インターネット上の最新の製品情報を検索できるサービスや、サポート担当者とメッセージ交換できる、オンラインアシスタント機能をご利用いただけます。

■ AzbyClub メール配信サービス

お客様がお持ちのメールアドレスを AzbyClub に登録していただくと、お役立ち情報満載の「AzbyClub メール配信サービス」をご利用いただけます。

■ AzbyClub ポイントサービス

AzbyClub 会員専用のポイントサービスです。AzbyClub ホームページや WEB MART でご利用いただけます。

■ AzbyClub カード

ユーザー登録番号（AzbyClub 会員番号）が刻印された、お得な特典いっぱいのカードです。
入会費・年会費ともに無料です。

パソコンの画面上でユーザー登録する

パソコンの画面上でユーザー登録を行う方法には、次の 2 種類があります。

■ホームページからのユーザー登録

インターネットの FMV ユーザー登録専用のホームページからユーザー登録を行います。

■専用プログラムによるユーザー登録

「FMV オンラインユーザー登録」というユーザー登録専用プログラムでユーザー登録を行います。

5 準備が完了したら

ここまでの作業が終わると、パソコンの準備は完了です。

パソコンの準備はすべて完了していますか？

これまで説明してきたパソコンの準備が、すべて完了しているか確認してください。再確認したい項目や、完了していない操作については、各参照先に戻って再度確認または操作してください。

1「機種名を確認してください」（▶P.16）
お使いの機種によってマニュアルの読み方が異なります。

2「使用上のお願い」（▶P.17）
このパソコンの取り扱いにあたっての大切な注意事項です。確認してください。

3「接続する」（▶P.23）
必要な機器が取り付けられているか、確認してください。

4「初めて電源を入れる～ Windows のセットアップ」（▶P.31）
初めて電源を入れたときに行う操作です。すべての操作を終えているか、確認してください。

5「電源の切り方と入れ方」（▶P.43）
必ずこのマニュアルの手順に従って操作してください。

6「インターネットを始めるための準備をする」（▶P.47）
お客様の環境にあった接続方法を選択し、セキュリティ対策を行ってください。

7「ユーザー登録をする」（▶P.50）
パソコンの画面上でユーザー登録を行います。

パソコンの準備が完了したら『ＦＭＶ 活用ガイド』へ

パソコンの準備が完了したら『ＦＭＶ 活用ガイド』をお読みください。『ＦＭＶ 活用ガイド』では、パソコンをお使いになる前に確認していただきたいこと、覚えておくと便利なこと、情報の探し方やトラブルの対処法など、FMV を活用するためのさまざまな情報を紹介しています。

『ＦＭＶ 活用ガイド』の主な内容

第 1 章　使いはじめる前に確認しよう
パソコンの準備がすべて完了しているか、この章で再度確認します。

第 2 章　基本的な使い方を覚えよう
パソコンの基本操作、ホームページの見かたや E メールの基本操作がわかります。

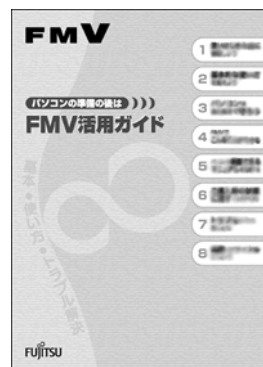
第 3 章　パソコンは自分自身で守ろう
大切なデータの予備をとる（バックアップする）方法や、ウイルスなどからパソコンを守るセキュリティ対策について説明しています。

第 4 章　FMV のおすすめ活用法
FMV に搭載されているソフトウェアを使ってできる、楽しい活用法を紹介しています。また、周辺機器の取り付けや、FMV を最新の状態にするなど、FMV をパワーアップするためのヒントも紹介しています。

第 5 章　パソコンの画面で見るマニュアルを活用する
パソコンを使いこなすための情報がある、「パソコンの画面で見るマニュアル」の使い方や調べ方を説明しています。

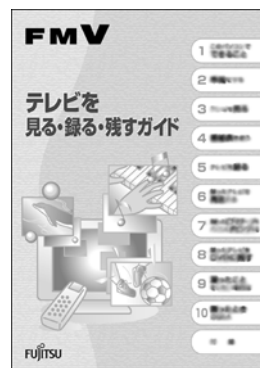
第 6 章　パソコンをご購入時の状態に戻す（リカバリ）
ハードディスクを初期状態に戻し、Windows やソフトウェアをご購入時の状態に戻す方法を説明しています。

第 7 章　トラブルかなと思ったら
電源が入らないトラブル・画面が表示できないトラブルを中心に、パソコンを使っていて困ったときの対処法を説明しています。

第 8 章　廃棄・リサイクルについて
このパソコンや使用済み乾電池・バッテリを廃棄するときの注意事項などが書かれています。また、破棄する前に、ハードディスクのデータを消去する方法も説明しています。

テレビの操作を知りたいときは『テレビを見る・録る・残すガイド』へ

このパソコンでテレビを見たり、番組を録画したりする方法については、『テレビを見る・録る・残すガイド』をご覧ください。このパソコンでテレビを見る前に確認していただきたいこと、具体的なテレビの利用方法、トラブル時の対処方法について紹介しています。

『テレビを見る・録る・残すガイド』の主な内容

第 1 章　このパソコンでできること
第 2 章　準備をする
第 3 章　テレビを見る
第 4 章　番組表を使う
第 5 章　テレビを録る
第 6 章　録ったテレビを再生する
第 7 章　昔録ったビデオテープをパソコンにダビングする
第 8 章　録ったテレビを DVD に残す
第 9 章　こんなこともできます
第 10 章　困ったときの Q&A

この後の章では、各部名称（▶P.55）、仕様一覧（▶P.62）、メモリの増やし方（▶P.82）などが記載されています。目的に合わせてお読みください。

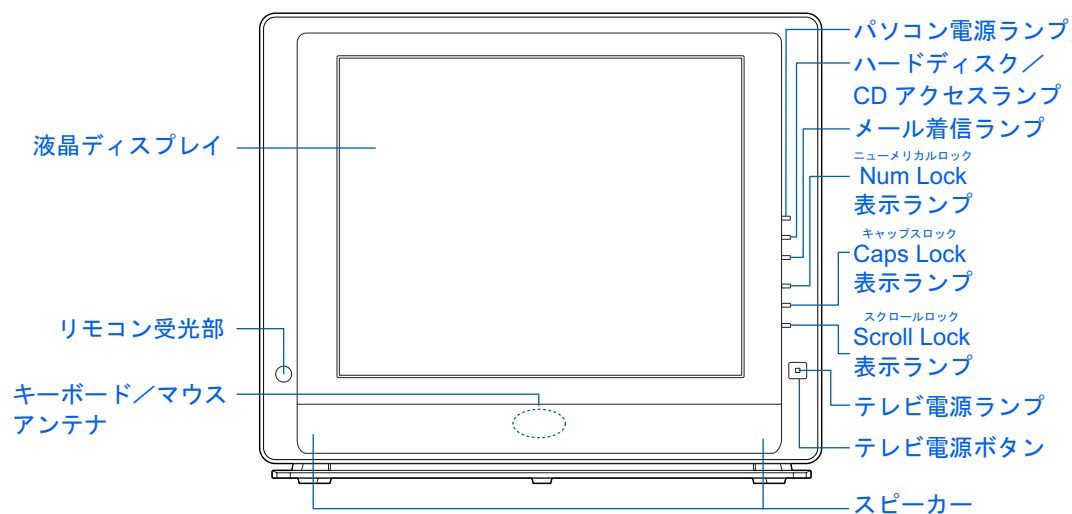
第 4 章

各部名称

パソコンの各部の名称について説明しています。

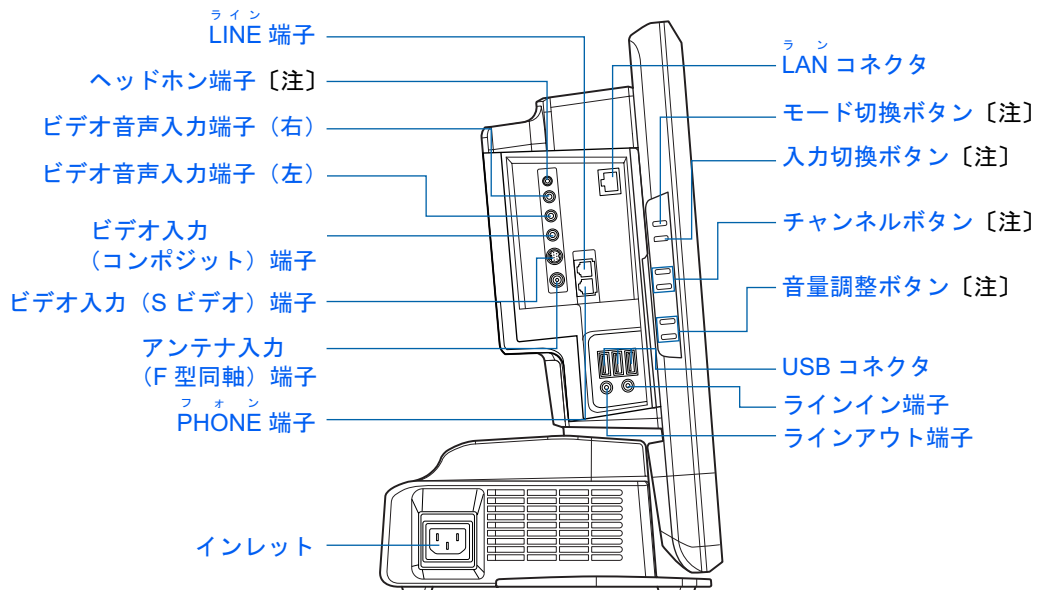
1　パソコン本体前面 56
2　パソコン本体側面 57
3　パソコン本体背面 59
4　ワンタッチボタン 60

1 パソコン本体前面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」（••▶P.16）をご覧ください。

詳しくは、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体前面」をご覧ください。

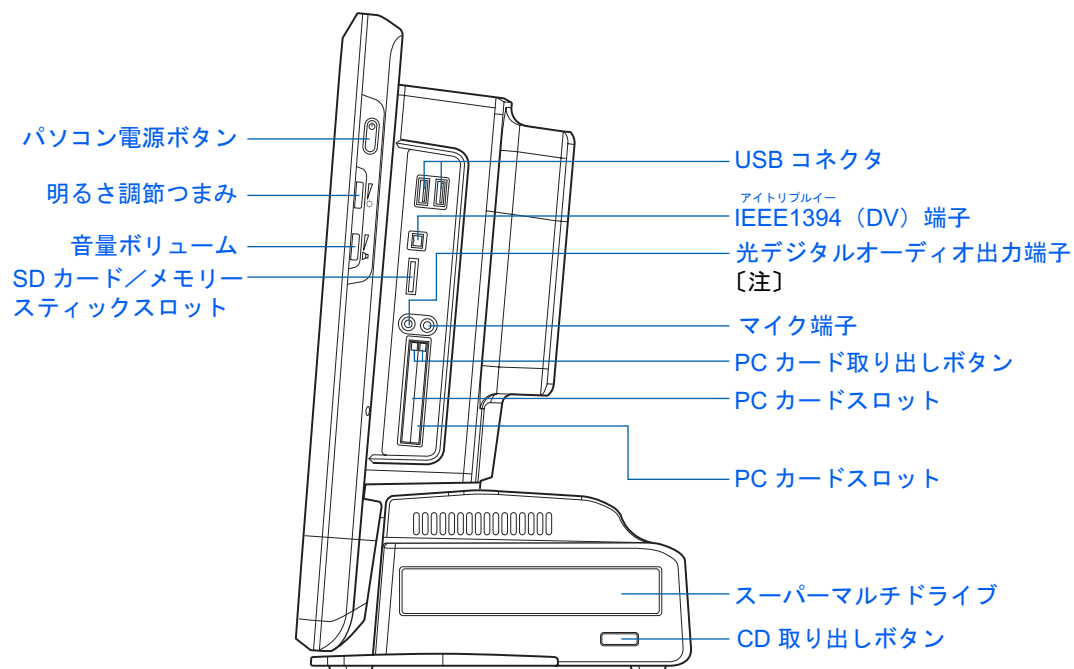
2 パソコン本体側面

パソコン本体左側面

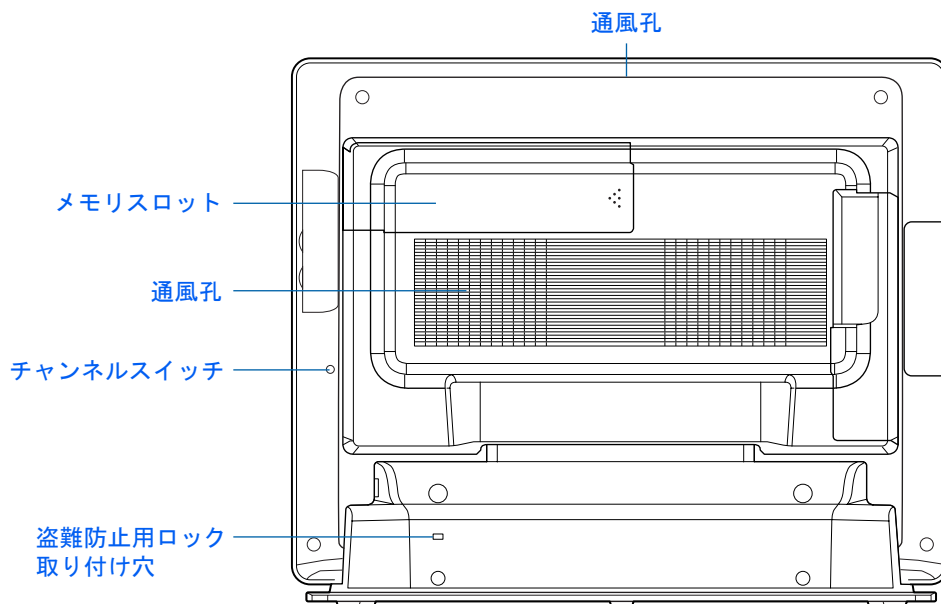
機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」（••▶P.16）をご覧ください。

注：LX70H、LX70HN、LX50HNをお使いの方のみ内蔵されています。

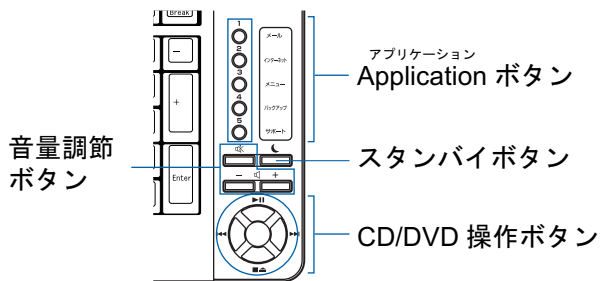
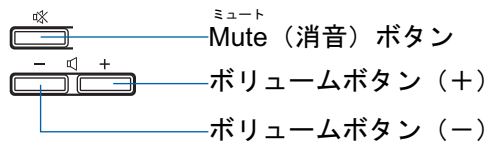
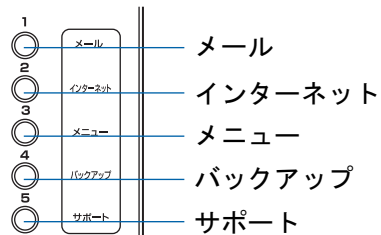
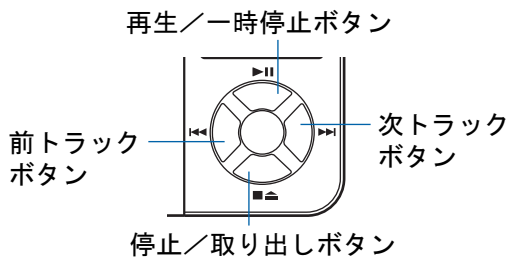
詳しくは、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMVの使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」をご覧ください。

パソコン本体右側面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」（••▶P.16）をご覧ください。

注 ：LX50H をお使いの方は、ヘッドホン端子／光デジタルオーディオ出力端子になります。

詳しくは、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」をご覧ください。

3 パソコン本体背面

詳しくは、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体背面」をご覧ください。

4 ワンタッチボタン

■音量調節ボタン

■Application ボタン

■CD/DVD 操作ボタン

詳しくは、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMV の使い方」→「基本機能」→「各部の名称と働き：ワンタッチボタン」をご覧ください。

1 パソコン本体の仕様

製品名称		FMV-DESKPOWER LX70H	FMV-DESKPOWER LX50H
CPU		インテル® Pentium® 4 プロセッサ 3GHz[注1]	インテル® Celeron® プロセッサ 2.60GHz
キャッシュメモリ		1 次：12Kμ Ops 実行トレース＋ 8KB データ、2 次：512KB（CPU 内蔵）	1 次：12Kμ Ops 実行トレース＋ 8KB データ、2 次：128KB（CPU 内蔵）
チップセット		インテル® 865GV チップセット	
システム・バス		800MHz	400MHz
メインメモリ[注2]		標準 256MB （PC3200 DDR SDRAM DIMM ）ECC なし[注3]　最大 1GB[注4]	
メモリスロット		× 2（空きスロット× 1）[注5]	
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	最大 96MB（メインメモリと共用）[注6]	
	液晶ディスプレイ[注7]	17 型デジタル液晶	
	解像度／発色数	最大　1280 × 1024 ドット／最大　1677 万色[注8]	
フロッピーディスクドライブ[注9]		FDD ユニット（USB）（別売）	
ハードディスクドライブ[注10]		160GB（Ultra ATA/100）	
CD/DVD ドライブ		スーパーマルチドライブ[注11]	
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵＋ AC97 コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数　最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
通信機能	モデム	データ：最大 56kbps（V.90 規格準拠）[注12]／FAX：最大 14.4kbps	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠	
テレビ機能	インスタントテレビ機能	インスタントテレビ機能搭載	―
	テレビチューナー	受信チャンネル[注13]：VHF（1 ～ 12ch）、UHF（13 ～ 62ch）、CATV（C13 ～ C63ch） ステレオ、音声多重対応	
	録画形式[注14]	MPEG2（ハードエンコード）[注15]	
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type Ⅰ / Ⅱ × 2 スロットまたは Type Ⅲ × 1 スロット　（CardBus 対応）	
	SD カード／メモリースティック[注16]	× 1 スロット	
	USB[注17]	USB2.0 準拠× 5 （左側面× 3、右側面× 2）	
	IEEE1394（DV）	4 ピン× 1（S400）	
	モデム	RJ-11 × 2（LINE × 1、PHONE × 1）	
	LAN	RJ-45 × 1	
	テレビ	アンテナ入力（F 型同軸） ビデオ入力（S ビデオ× 1、コンポジット× 1）、 ビデオ音声入力（右 / 左）× 1	
	オーディオ	マイク：φ3.5mm ミニジャック（入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス（AC）10kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）、ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック（出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）、光デジタルオーディオ出力 : 丸形 : 光ミニジャック、ラインイン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、ラインアウト：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック	
電源／周波数		AC100V　50/60Hz	
消費電力	電源 OFF 時[注18]	11W 以下	3.5W 以下
	動作時	通常約 102W 最大 210W スタンバイ時約 13W	通常約 95W 最大 210W スタンバイ時約 5W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注19]		Q 区分 0.0016	Q 区分 0.0007
外形寸法		W479 × D236mm × H400 （突起部含まず）	

注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.66）をご覧ください。

製品名称	FMV-DESKPOWER LX70H	FMV-DESKPOWER LX50H
質量	約 15.5kg	約 15kg
盗難防止用ロック	あり	
温湿度条件	温度 10 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 90%RH（非動作時）（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストール OS	Windows XP Home Edition [注20] （DirectX:9.0b 対応）	
サポート OS	Windows XP Home Edition [注21]、Windows XP Professional [注21 注22]	

注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.66）をご覧ください。

製品名称		FMV-DESKPOWER LX70HN	FMV-DESKPOWER LX50HN
CPU		インテル®Pentium® 4 プロセッサ 3GHz[注1]	インテル®Celeron® プロセッサ 2.60GHz
キャッシュメモリ		1 次：12Kμ Ops 実行トレース＋ 8KB データ、2 次：512KB（CPU 内蔵）	1 次：12Kμ Ops 実行トレース＋ 8KB データ、2 次：128KB（CPU 内蔵）
チップセット		インテル® 865GV チップセット	
システム・バス		800MHz	400MHz
メインメモリ[注2]★		標準 256MB（PC3200 DDR SDRAM DIMM）ECC なし[注3]　最大 1GB[注4]／ 512MB（PC3200 デュアルチャネル DDR SDRAM DIMM）ECC なし[注3]　最大 1GB[注4]／ 1GB（PC3200 デュアルチャネル DDR SDRAM DIMM）ECC なし[注3]　最大 1GB[注4]	
メモリスロット		× 2（空きスロット× 1：256MB モデル）／× 2（空きスロット無し：512MB ／ 1GB モデル）[注5]	
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	最大 96MB（メインメモリと共用）[注6]	
	液晶ディスプレイ[注7]	17 型デジタル液晶	
	解像度／発色数	最大　1280 × 1024 ドット／最大　1677 万色[注8]	
フロッピーディスクドライブ[注9]		FDD ユニット（USB）（別売）	
ハードディスクドライブ[注10]★		160GB ／ 200GB ／ 250GB（Ultra ATA/100）	
CD/DVD ドライブ		スーパーマルチドライブ[注11]	
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵＋ AC97 コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数　最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
通信機能	モデム	データ：最大 56kbps（V.90 規格準拠）[注12]／ FAX：最大 14.4kbps	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠	
テレビ機能	インスタントテレビ機能	インスタントテレビ機能搭載	
	テレビチューナー	受信チャンネル[注13]：VHF（1 〜 12ch）、UHF（13 〜 62ch）、CATV（C13 〜 C63ch） ステレオ、音声多重対応	
	録画形式[注14]	MPEG2（ハードエンコード）[注15]	
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type Ⅰ / Ⅱ × 2 スロットまたは Type Ⅲ × 1 スロット　（CardBus 対応）	
	SD カード／メモリースティック[注16]	× 1 スロット	
	USB[注17]	USB2.0 準拠× 5 （左側面× 3、右側面× 2）	
	IEEE1394（DV）	4 ピン× 1 （S400）	
	モデム	RJ-11 × 2（LINE × 1、PHONE × 1）	
	LAN	RJ45 × 1	
	テレビ	アンテナ入力（F 型同軸）× 1、ビデオ入力（S ビデオ× 1、コンポジット× 1）、 ビデオ音声入力（右 / 左）× 1	
	オーディオ	マイク：φ3.5mm ミニジャック（入力：100mV 以下、入力インピーダンス（AC）10kΩ 以上（DC）2kΩ 以上）、ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック（出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω）、光デジタルオーディオ出力：丸形：光ミニジャック、ラインイン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、ラインアウト：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック	
電源／周波数		AC100V　50/60Hz	
消費電力	電源 OFF 時[注18]	11W 以下	
	動作時	通常約 102W 最大 210W スタンバイ時約 13W	通常約 97W 最大 210W スタンバイ時約 13W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注19]		Q 区分 0.0016	Q 区分 0.0019
外形寸法		W479 × D236 × H400 mm（突起部含まず）	

★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（P.66）をご覧ください。

製品名称	FMV-DESKPOWER LX70HN	FMV-DESKPOWER LX50HN
質量	約 15.5kg	
盗難防止用ロック	あり	
温湿度条件	温度 10 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 90%RH（非動作時）（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストール OS	Windows XP Home Edition 注 20　（DirectX:9.0b 対応）	
サポート OS	Windows XP Home Edition 注 21、Windows XP Professional 注 21 注 22	

★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（••▶P.66）をご覧ください。

仕様一覧の注記について

注 1 ： ご購入時のハイパー・スレッディング・テクノロジ設定は、有効になっています。
ソフトウェアや周辺機器を追加される場合は、ハイパー・スレッディング・テクノロジに対応しているか、販売元にご確認ください。

注 2 ： ビデオメモリと共有しているため、「コントロールパネル」の「パフォーマンスとメンテナンス」の「システム」では、搭載メモリサイズより少なく表示されます。
ビデオメモリの使用量は、Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）により、パソコンの動作状況によって自動的に変化します。

注 3 ： メモリについては、LX70H、LX70HN の場合は 400MHz、LX50H、LX50HN の場合は 266MHｚ の周波数で動作します。

注 4 ： メインメモリの最大容量は拡張 RAM モジュール 512MB を 2 枚搭載した場合です。また、デュアルチャネルで動作させるには当社指定の純正オプションが必要です。

注 5 ： 当社指定の純正オプションを追加することにより、デュアルチャネルで動作させることができます。

注 6 ： IIntel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）を使用しているため、パソコンの動作状況により、メモリ容量が自動的に変化します。

注 7 ： 液晶ディスプレイの特性について
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
　これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
　これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが、故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。
　この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
・表示する条件によっては、むらおよび微少な斑点が目立つことがありますが、故障ではありません。

注 8 ： グラフィックアクセラレータの出力する最大発色数は1677 万色ですが､液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表現されます。

注 9 ： ・このパソコンにはフロッピーディスクドライブは内蔵されていません。オプション品の FDD ユニット（USB）（FMFD-51S）を、お買い求めの上、お使いください。
　なお、FDD ユニットの接続と取り外しは、必ず電源を切った状態で行ってください。
・FDD ユニット（USB）（FMFD-51S）を接続すると、デスクトップの （マイコンピュータ）内にドライブが表示され、フロッピーディスクドライブとして使うことができます。
・FDD ユニット（USB）（FMFD-51S）では、次のフロッピーディスクは使用できません。
　・OASYS 文書フロッピィ
　・640KB でフォーマットしたフロッピーディスク
・FDD ユニット（USB）（FMFD-51S）では、次のフロッピィーディスクは、データの読み書きはできますが、フォーマットはできません。
　・1.25MB でフォーマットしたフロッピーディスク
　・1.23MB でフォーマットしたフロッピーディスク
　・720KB でフォーマットしたフロッピーディスク

注 10 ： このマニュアルに記載のディスク容量は、1MB=1000^2byte、1GB=1000^3byte 換算によるものです。
Windows 上で 1MB=10242byte、1GB=10243byte 換算で表示される容量は、このマニュアルに記載のディスク容量より少なくなります。

注 11 ： ドライブの主な仕様は次の通りです。

スーパーマルチドライブ	CD-ROM/CD-R 読出：最大 32 倍速、CD-RW 読出：最大 24 倍速、DVD-RAM 読出：最大 3 倍速（4.7/9.4GB）、最大 1 倍速（2.6/5.2GB）、DVD-ROM 読出：最大 12 倍速、DVD-R 読出：最大 8 倍速、DVD-RW 読出：最大 8 倍速、DVD+R 読出：最大 8 倍速、DVD+RW 読出：最大 8 倍速、CD-R 書込：最大 24 倍速、CD-RW 書込書換：最大 10 倍速、DVD-RAM 書込：最大 3 倍速（4.7/9.4GB）、DVD-R 書込：最大 8 倍速、DVD-RW 書込書換：最大 4 倍速、DVD+R 書込：最大 8 倍速、DVD+RW 書込書換：最大 4 倍速

注 12 ： 56000bps は、V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。
詳しくは、パソコン本体の「画面で見るマニュアル」に登録されている「FAX モデムカード -56000（全二重）（FMV-FX52Z4 シリーズ）（FMV-FX52Z3 シリーズ）取扱説明書」をご覧ください。

注 13 ： BS/CS 放送のチャンネルは受信できません。

注 14 ： 録画機能は、パソコン本体が起動しているときのみお使いになれます。

注 15 ： ・テレビ番組の録画などは、お客様個人またはご家庭で楽しむ目的でのみ、ご利用ください。
・ビデオなどコピーガード信号を含んだ映像を、録画することはできません。
　また、ビデオ入力（S ビデオ）端子やビデオ入力（コンポジット）端子に接続した一部のビデオ機器では、メニューや操作画面においてコピーガード信号を出しています。このような場合も、映像を録画することはできません。

注 16 ： 「SD メモリーカード」と「メモリースティック」の同時使用はできません。
「マジックゲート」などの著作件保護機能には対応していません。
マルチメディアカード（MMC）には対応していません。

注 17 ： すべての USB 対応周辺機器について動作するものではありません。

注 18 ： 電源 OFF 時の電力消費を回避するには、パソコンの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 19 ： エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

注 20 ： 出荷時に、Service Pack1a が適用されています。

注 21 ： Service Pack1a が適用されている必要があります。

注 22 ： 他の OS をお使いになるときは、FMV 活用サイト AzbyClub（アズビィクラブ）ホームページ（http://azby.fmworld.net/）をご覧ください。

2 その他の仕様

液晶ディスプレイ

表示方式	TFT
サイズ	17 型
最大解像度	1280 × 1024 ドット
最大発色数	1619 万色

内蔵スピーカー

方式	トランソニックスピーカー
スピーカーユニット	口径：30（mm）インピーダンス 3.5Ω
定格（最大）入力	2W/ch
音圧レベル	78dB/W（m）
再生周波数	175Hz ～ 20kHz

LAN 機能

LAN コントローラ	Intel ICH5 内蔵 + 82562EZ
送受信バッファ用 RAM	送受信　各 3kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル注 1 （100Mbps：カテゴリ 5、10Mbps：カテゴリ 3 ～ 5）
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数／セグメント	ハブユニット注 2 による

注 1：　ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア（UTP）カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注 2：　ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

ネットワークのスピードについて

LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

ハードエンコーダ付き TV チューナーカード

割り込み（IRQ）	PCI システムによる自動設定
メモリマッピング	PCI システムによる自動設定
NTSC 入力仕様	NTSC コンポジット：1Vp-p75Ω　S ビデオ：1 Vp-p75Ω
コネクタ	ビデオ音声入力端子（右）・・RCA ピンジャック× 1 ビデオ音声入力端子（左）・・RCA ピンジャック× 1 ビデオ入力 (コンポジット) 端子・・RCA ピンジャック× 1 ビデオ入力 (S ビデオ) 端子・・ミニ DIN4 ピンジャック× 1 ビデオ入力（F 型同軸）端子・・F 型コネクタ× 1 ヘッドホン出力端子・・φ3.5mm ステレオミニジャック× 1 注
TV 音声仕様	ステレオ、音声多重対応
RF 入力端子	75ΩF 型コネクタ

注 ： LX70H、LX70HN、LX50HN をお使いの方のみ内蔵されています。

リモコン

通信方式		赤外線方式
使用可能距離		3m
乾電池の寿命の目安		約 6ヶ月（マンガン乾電池使用時）
使用可能範囲	水平	約 30°
	垂直	上：約 10°／下：約 40°
使用電池		単 3 形乾電池 2 本

付　録

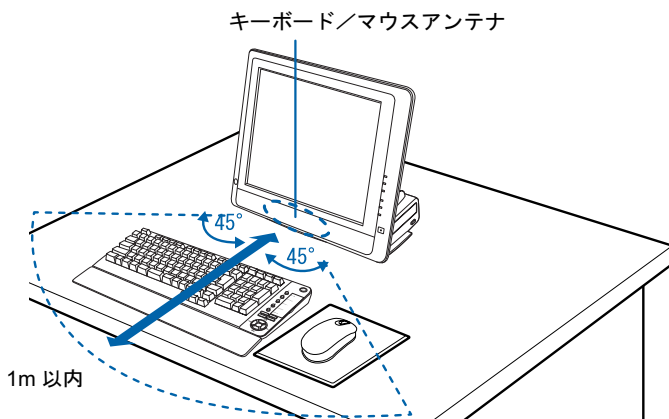
周辺機器の使用上の注意やメモリの増やし方などを説明しています。目的に合わせてお読みください。

1　ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて 70
2　リモコンについて 81
3　メモリについて 82

1 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて

使用に適した配置

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスは、次のような場所でお使いください。
なお、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。
信号を受けるキーボード / マウスアンテナは、パソコン本体に内蔵されています。

・机の上など平らで安定した場所
・パソコン本体と同じくらいの高さで、操作に十分なスペースが取れる場所
・パソコン本体から 1m 以内、左右約 45 度の範囲

POINT

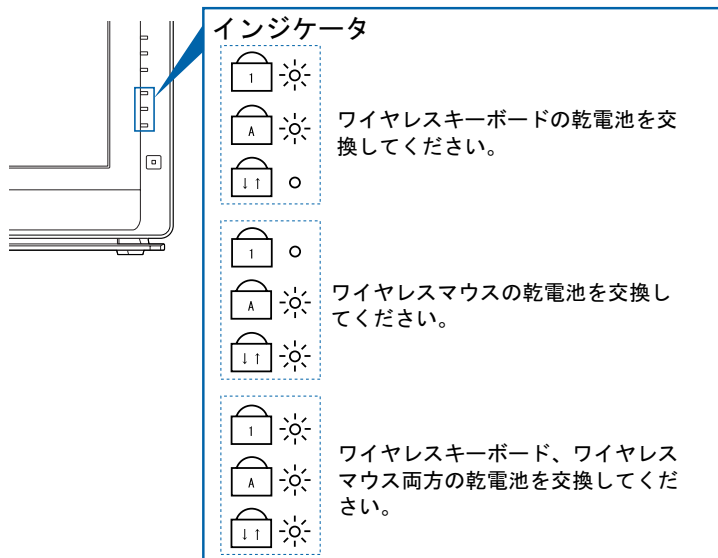
ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスをお使いになるときの注意事項

以下の場合、うまく通信できないことがあります。設置場所を変えるなど、通信の妨げとなる原因を取り除いてください。

・ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの送信部とキーボード／マウスアンテナとの距離が離れすぎていたり、間に遮蔽物がある場合
・本体周辺に金属製の物（スチール製の机、金属部分がある机）がある場合
・ラジコンや無線機器などこのパソコンと同じ周波数の電波を発するものが近くにある場合
・ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを使用したパソコンを近くで使用している場合
電波が混信することがあります。別の通信周波数／ ID に設定してください。

乾電池について

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの乾電池について説明します。
乾電池をお使いになる際は、「安全上のご注意」→「乾電池について」（••▶P.11）も必ずご覧ください。

- **ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。**
  すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。
- **乾電池の寿命の目安は、毎日 2 時間の使用で、ワイヤレスキーボードは約 1 年、ワイヤレスマウスは約 6ヶ月です。**
  ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。
  乾電池の交換時には、ワイヤレスキーボードは単 3 型、ワイヤレスマウスは単 4 型の市販のアルカリ乾電池 2 本をご使用ください。
- **必ずアルカリ乾電池をお使いください。**
  アルカリ乾電池以外の乾電池（マンガン乾電池、充電式乾電池など）をお使いになると、十分な機能・性能で動作しない場合があります。
- **パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。**
  パソコン本体の電源が入っていなくても、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが動作していると乾電池が消費されます。また、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。
- **ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスをお使いになっているときに乾電池が消耗すると、パソコン本体のインジケータが点滅します。**
  次のイラストをご覧ください。インジケータの点滅のしかたにより、どちらの乾電池を交換する必要があるのかがわかります。
  乾電池が消耗すると、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの動作が不安定になります。お早めに新しい乾電池と交換してください。

乾電池を交換する

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを交換する方法については、「キーボード／マウスを準備する」（••▶P.26）をご覧ください。

POINT

乾電池の使用推奨期限を確認してください

乾電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

重 要

乾電池の交換などで乾電池を抜くと、通信周波数は「チャンネル A」、ID 設定値は「ID0（ゼロ）」になります

もう一度通信周波数、ID 設定値を変更してください（••▶P.73）。

通信周波数／ID 設定値について

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／ID 設定値の変更方法について説明します。

重 要

設定をする前に確認してください

・「使用上のお願い」（▶P.17）をご覧になり、パソコンを設置している環境を確認してください。
・パソコン電源を入れた状態で設定してください。パソコン電源が入っていないときや、省電力機能が働いているときは設定することはできません。

通信周波数（チャンネル）／ ID 設定値を合わせてください

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスは、キーボード／マウスアンテナ（パソコン本体に内蔵）と通信するために、それぞれ 2 つの通信周波数（チャンネル）を備えており、さらにそれぞれの通信周波数（チャンネル）に対して 16 個の ID を備えています。

ワイヤレスキーボード

チャンネル A : ID0 ～ ID15

チャンネル B : ID0 ～ ID15

ワイヤレスマウス

チャンネル A : ID0 ～ ID15

チャンネル B : ID0 ～ ID15

通信周波数（チャンネル）／ ID 設定値はパソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスがそれぞれに記憶しています。パソコン本体とワイヤレスキーボード、パソコン本体とワイヤレスマウスの ID 設定値がそれぞれ一致しないと、正しく動作しません。
記憶されている通信周波数／ ID 設定値を忘れてしまった場合は、パソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスすべてをリセットして、初期値（チャンネル A ／ ID0（ゼロ））にしてください。
その際、例えばワイヤレスキーボードの通信周波数（チャンネル）／ ID 設定値だけをリセットしても、パソコン本体、ワイヤレスマウスの設定値はリセットされません。リセットする場合は、パソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスすべての設定値をリセットしてください。

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは同じ通信周波数（チャンネル）に設定してください

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）は同じ設定にしてください。同じ設定になっていないと、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを同時に使用できません（ID は異なっていても動作します）。

乾電池の交換などで乾電池を抜くと、通信周波数は「チャンネル A」、ID 設定値は「ID0（ゼロ）」になります

もう一度、通信周波数、ID 設定値を変更してください。（▶P.73）

複数のワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの同時使用について

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスが標準添付となっているパソコンを複数台で同時に使用する場合は、パソコン同士の混信を避けるために、隣接するパソコンごとに通信周波数（チャンネル）を変えてお使いください。
それでも影響がある場合は、目安としてパソコン同士を 2m 以上離して設置してください。

通信周波数（チャンネル）／ ID 設定中は、他のパソコンを操作しないでください

通信周波数（チャンネル）／ ID 設定値を設定するときは、1 台ずつ行ってください。違う通信周波数（チャンネル）／ ID に設定され、混信するおそれがあります。

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスが使えなくなったとき、または混信するときには、次の手順に従って通信周波数（チャンネル）／ID設定値を変更してください。

■1台だけでお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンが近くにない場合は、混信の心配がないため、初期値（チャンネルA／ID0（ゼロ））のままお使いいただけます。通信周波数／ ID を設定する必要はありません。ただし、何らかの原因で使えなくなった場合のみ、「1 通信周波数／IDをリセットする」（••▶P.75）をご覧になり、設定情報をリセットして初期値（チャンネルA／ID0（ゼロ））に戻してください。

■近接して2台でお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンを近くで 2 台使う場合は、次の手順に従って 2 台のうち 1 台のチャンネルを B に変更してください。もう 1 台は、初期値（チャンネルA）でお使いください。

1「1 通信周波数／IDをリセットする」（••▶P.75）

通信周波数／IDをリセットします。

2「2 新しい通信周波数（チャンネル）／IDを設定する」（••▶P.77）

2台のうち1台の通信周波数をチャンネルBに変更します。

■近接して3台以上でお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンを近くで 3 台以上使う場合は、次の手順に従って各パソコンの通信周波数／ID設定値が異なるように設定してください。

1「1 通信周波数／IDをリセットする」（••▶P.75）

通信周波数／IDをリセットします。

2「2 新しい通信周波数（チャンネル）／IDを設定する」（••▶P.77）

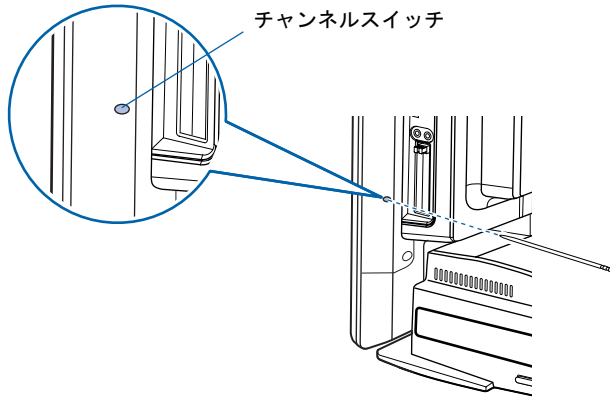
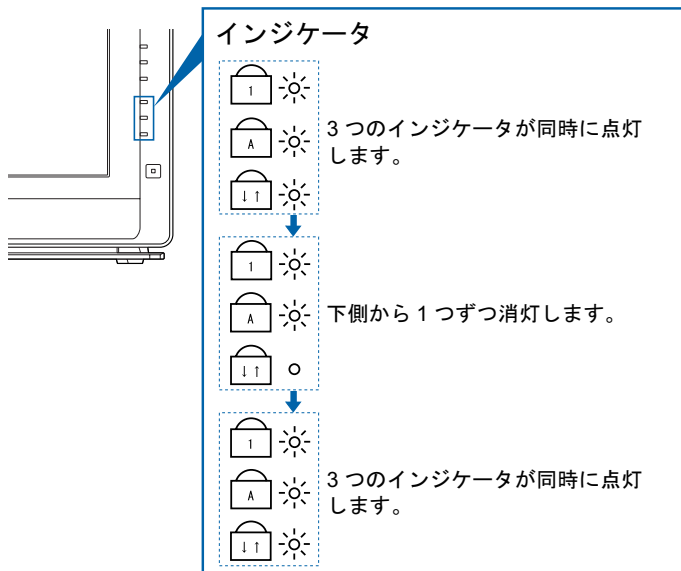
各パソコンの通信周波数／ID設定値を変更します。

1 通信周波数／ID をリセットする

1 インジケータ（下図参照）の状態を紙に書き留めておいてください。

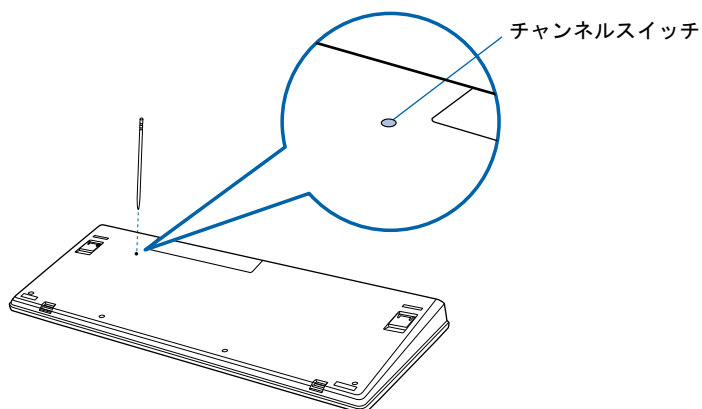
リセット完了時に、インジケータの状態を確認する必要があります。

2 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを 3 つのインジケータが同時に点灯するまで押し続けます（約 5 秒間）。

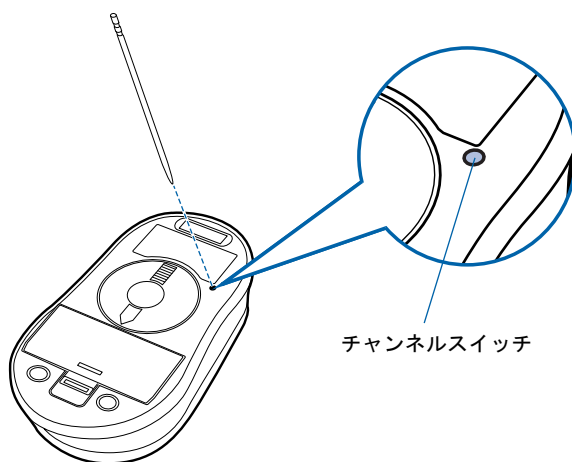
電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
パソコン本体に記憶されているワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス両方の通信周波数／ID 設定値がリセットされ、初期値（チャンネル A ／ ID0（ゼロ））になります。

パソコン本体前面の 3 つのインジケータが次のように点滅します。

3 つのインジケータが同時に点灯したら、電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）をチャンネルスイッチから離してください。
その後、インジケータが 2 回点滅し、手順 1（••▶P.75）で確認した状態に戻れば、正しくリセットされたことになります。
うまくいかなかったときは、もう一度この操作を行ってください。

次のページへ

3 ワイヤレスキーボード裏面のチャンネルスイッチを 10 秒以上押し続けます。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。

ワイヤレスキーボードに記憶されているキーボードの通信周波数／ID設定値がリセットされ、初期値（チャンネル A ／ ID0（ゼロ））になります。

4 ワイヤレスマウス裏面のチャンネルスイッチを 10 秒以上押し続けます。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。

ワイヤレスマウスに記憶されているマウスの通信周波数／ ID 設定値がリセットされ、初期値（チャンネル A ／ ID0（ゼロ））になります。

2 新しい通信周波数（チャンネル）／IDを設定する

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／IDはパソコン本体がID設定モードになっている20秒間に記憶されます。ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスのチャンネルスイッチを1回押すとID1が設定され、2回押すとID2が、というようにスイッチを押した回数によりID設定値が変わり、ID15まで選択できます。ID15の次はID0（ゼロ）に戻ります。初期状態ではID0（ゼロ）が設定されています。
また、通信周波数（チャンネル）をチャンネルAにするかBにするかにより、操作方法が異なります。

ワイヤレスキーボード

チャンネルA：チャンネルスイッチを押すことにより、ID1,ID2・・・と変更
チャンネルB：ワイヤレスキーボードの［　］（スペースキー）を押しながらチャンネルスイッチを押すことにより、ID1,ID2・・・と変更

ワイヤレスマウス

チャンネルA：チャンネルスイッチを押すことにより、ID1,ID2・・・と変更
チャンネルB：ワイヤレスマウスの右ボタンを押しながらチャンネルスイッチを押すことにより、ID1,ID2・・・と変更

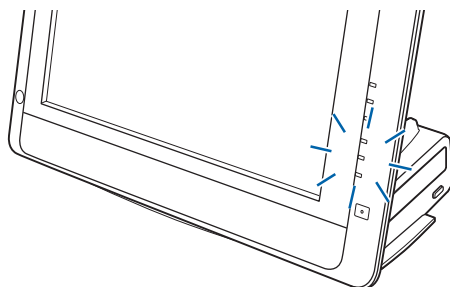
■ワイヤレスキーボードの通信周波数（チャンネル）／IDを設定する

1 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを1回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
このとき4秒以上ボタンを押し続けないでください。

ID設定モードになり、パソコン本体の3つのインジケータが約20秒間、上から順番に点滅を開始します。

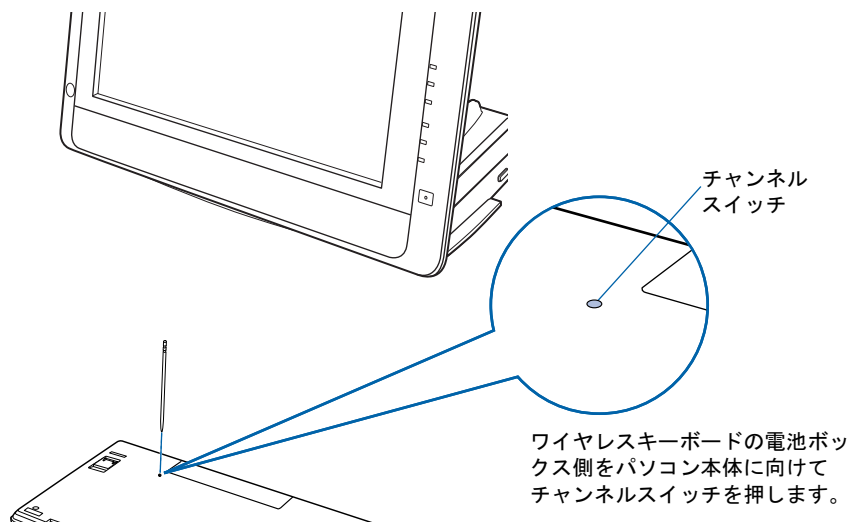
次のページへ

付録

2 **ワイヤレスキーボードを裏返しにし、電池ボックス側をパソコン本体に向けて手に持ちます。**

このとき、ワイヤレスキーボードのキーを押さないように持ってください。
チャンネルBに設定する場合は、ワイヤレスキーボードの［　］の位置を確認しておきます。

3 **インジケータが上から順番に点滅している間に、ワイヤレスキーボードの裏面のチャンネルスイッチを設定したい回数押します。**

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
このとき4秒以上ボタンを押し続けないでください。

（例）

初期値（ID0（ゼロ））の状態からID5に設定する場合→チャンネルスイッチを5回押します。
ID3の状態からID10に設定する場合→チャンネルスイッチを7回押します。

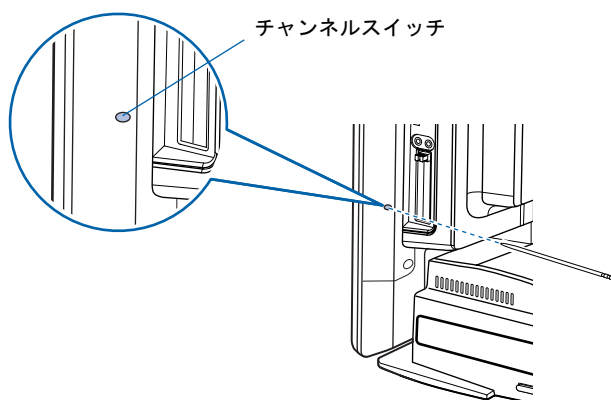
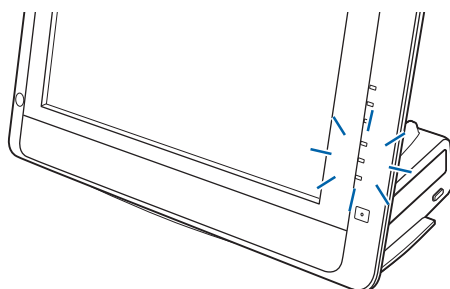
チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスキーボードの［　］を押しながら、チャンネルスイッチを設定したい回数押します。
なお、チャンネルを変更しても、IDの値は引き継がれます。
（例）

チャンネルA／ID3の状態から、［　］を押しながらチャンネルスイッチを7回押す
→チャンネルB／ID10に設定されます。
チャンネルB／ID13の状態から、［　］を押さずにチャンネルスイッチを4回押す
→チャンネルA／ID1に設定されます。

正しく受信したときは、約1秒後に3つのインジケータが同時に点滅し、通信周波数（チャンネル）／IDが記憶されます。チャンネルBに設定した場合は、このインジケータの点滅が終わるまで［　］を押し続けてください。
設定後もワイヤレスキーボードが正しく動作しないときは、正しく設定できていない可能性があります。「1 通信周波数／IDをリセットする」（••▶P.75）からもう一度設定を行ってください。

■ワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／ID を設定する

1 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを 1 回押します。

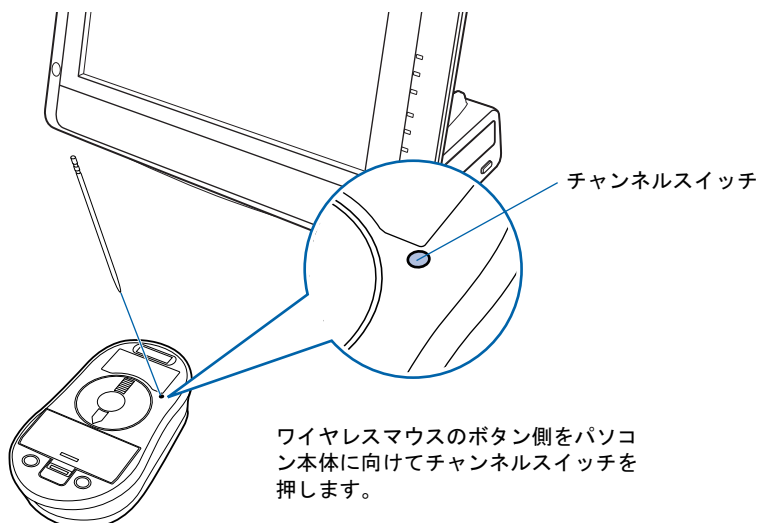
電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
このとき 4 秒以上ボタンを押し続けないでください。

ID 設定モードになり、パソコン本体の 3 つのインジケータが約 20 秒間、上から順番に点滅を開始します。

2 ワイヤレスマウスを裏返しにし、ボタン側をパソコン本体に向けて手に持ちます。

このとき、ワイヤレスマウスのボタンなどを押さないように持ってください。
チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスマウスの右ボタンの位置を確認しておきます。

次のページへ

3 インジケータが上から順番に点滅している間に、ワイヤレスマウス裏面のチャンネルスイッチを設定したい回数押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
このとき 4 秒以上ボタンを押し続けないでください。

（例）

初期値（ID0（ゼロ））の状態から ID5 に設定する場合→チャンネルスイッチを 5 回押します。
ID3 の状態から ID10 に設定する場合→チャンネルスイッチを 7 回押します。

チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスマウスの右ボタンを押しながら、チャンネルスイッチを設定したい回数押します。
なお、チャンネルを変更しても、ID の値は引き継がれます。
（例）

チャンネル A ／ ID3 の状態から、右ボタンを押しながらチャンネルスイッチを 7 回押す
→チャンネル B ／ ID10 に設定されます。
チャンネル B ／ ID13 の状態から、右ボタンを押さずにチャンネルスイッチを 4 回押す
→チャンネル A ／ ID1 に設定されます。

正しく受信したときは、約 1 秒後に 3 つのインジケータが同時に点滅し、通信周波数（チャンネル）／ ID が記憶されます。チャンネル B に設定した場合は、このインジケータの点滅が終わるまで右ボタンを押し続けてください。
設定後もワイヤレスマウスが正しく動作しないときは、正しく設定できていない可能性があります。「1 通信周波数／ ID をリセットする」（••▶P.75）からもう一度設定を行ってください。

2 リモコンについて

ここではリモコンをお使いになる際の注意事項、乾電池の交換方法について説明しています。リモコンの操作方法については、（サービスアシスタント）のトップ画面→「FMV の使い方」→「リモコンについて」をご覧ください。

重要

添付のリモコンを使用してください

本製品に添付のリモコンを使用して操作してください。

乾電池を交換する

リモコンの乾電池を交換する方法については、「リモコンに乾電池を入れる」（▶P.27）をご覧ください。

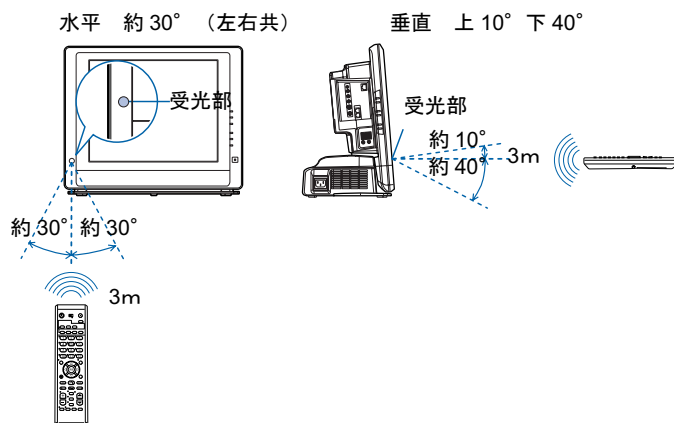
リモコンをお使いになる場合の注意

リモコンをお使いになる場合は、次の点にご注意ください。

- リモコンをお使いになる場合には、リモコンマネージャーが起動している必要があります。画面右下の通知領域に（リモコンマネージャー）が表示されているか、確認してください。リモコンマネージャーについては、（サービスアシスタント）のトップ画面→「添付ソフトウェア一覧」→「リモコンマネージャー」をご覧ください。
- 信号が受けやすいように、リモコンをパソコン本体の受光部に向けてください。
- パソコン本体の受光部とリモコンの間に障害物がない場所に設置してください。
- 直射日光などの強い光があたる場所での使用は避けてください。使用距離が短くなる場合があります。
- リモコンをプラズマディスプレイ／プラズマテレビの近くでお使いになると、リモコンが正常に動作しないことがあります。これはプラズマディスプレイ／プラズマテレビから放射される赤外線により、リモコンとパソコン本体の受光部との通信が妨害されるために起こる現象です。このようなときは、パソコン本体またはプラズマディスプレイ／プラズマテレビの設置場所を変更してください。

パソコン本体のリモコン受光部使用可能範囲

（イラストは機種や状況により異なります）

付録

3 メモリについて

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことや、メモリの取り付け方などを説明します。

POINT

周辺機器とは

プリンタ、デジタルカメラ、メモリなどの装置のことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン本体内部に取り付けたりして、パソコンの機能を拡張したり、処理速度を高めたりできます。

⚠警告

感　電

・周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
電源を入れたまま、または電源プラグを接続したままだと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠注意

故　障

・周辺機器のケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。
・周辺機器、および周辺機器のケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の周辺機器、および周辺機器のケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- **周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします**
  純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
  純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- **Windows のセットアップは終了していますか？**
  「初めて電源を入れる～ Windows のセットアップ」（••▶ P.31）をご覧になり、Windows のセットアップを行ってください。
  なお、セットアップを行うときは周辺機器を取り付けないでください。セットアップが正常に行われないおそれがあります。
- **周辺機器に添付のドライバがお使いの Windows に対応しているか確認してください**
  お使いになる周辺機器のドライバがお使いの Windows に対応していないと、その周辺機器はお使いになれません。必ずお使いの Windows に対応したものをご用意ください。

- **ドライバなどがフロッピーディスクで添付されている場合**
  周辺機器によっては、添付のドライバなどがフロッピーディスクで提供されているものがあります。その場合は、オプションの FDD ユニット（USB）（FMFD-51S）をご購入になり、接続した上でドライバをインストールしてください。
- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**
  このパソコンは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の 1 つ）によって電源制御を行っていますので、周辺機器も ACPI に対応している必要があります。
  ACPI に対応していない周辺機器をお使いの場合は、増設した機器やパソコンが正常に動作しなくなることがあります。周辺機器が ACPI に対応しているかどうかは、周辺機器メーカーにお問い合わせください。
  またこのパソコンの ACPI モードは、S3 に設定されています。
- **一度に取り付ける周辺機器は 1 つだけに**
  一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1 つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行ってから、別の周辺機器を取り付けてください。
- **パソコンおよび接続されている機器の電源を切る**
  安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。パソコン本体の電源の切り方については、「電源を切る」（••▶ P.43）をご覧ください。
- **電源を切った直後は作業をしない**
  電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10 分ほど待ってから作業を始めてください。
- **電源ユニットは分解しない**
  電源ユニットは、パソコン本体内部の背面側にある箱形の部品です。
- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意**
  傷付けたり、加工したりしないでください。また、ねじったり、極端に曲げたりしないでください。
- **静電気に注意**
  内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない**
  金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。
- **周辺機器の電源について**
  周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **ドライバーを用意する**
  パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。
  ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

メモリの取り付け場所

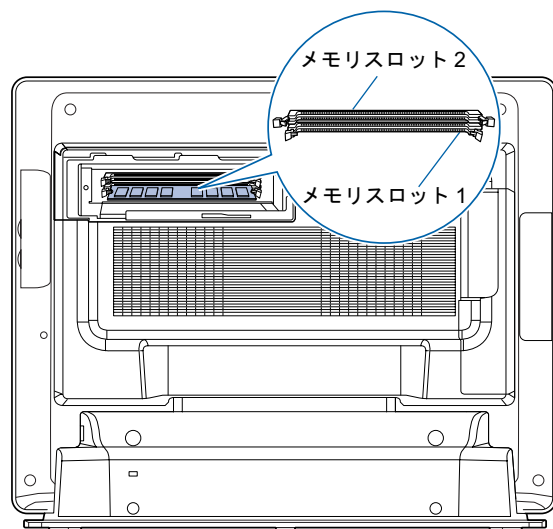
メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。
ご購入時の状態やメモリの増やし方は、お使いのパソコンによって異なります。

■ LX70H、LX50H をお使いの方

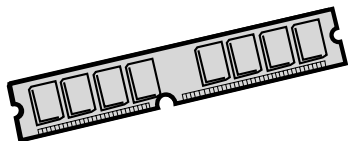
ご購入時は、メモリスロット 1 に 256MB のメモリが 1 枚取り付けられています。メモリは、最大 1GB（512MB × 2 枚）まで増やせます。
メモリ容量を増やすには、メモリスロット 2 に、新たにメモリを取り付けます。
最大容量まで増やしたい場合は、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット 1）を取り外して交換します。

■ LX70HN、LX50HN をお使いの方

ご購入時に選択したメモリが取り付けられています。メモリは、最大 1GB（512MB × 2 枚）まで増やせます。

- 256MB のメモリを選択した方
  ご購入時は、メモリスロット 1 に 256MB のメモリが 1 枚取り付けられています。
  メモリ容量を増やすには、メモリスロット 2 に、新たにメモリを取り付けます。
  最大容量まで増やしたい場合は、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット 1）を取り外して交換します。
- 512MB のメモリを選択した方
  ご購入時は、メモリスロット 1 と 2 にそれぞれ 256MB のメモリが 1 枚ずつ取り付けられています。
  メモリ容量を増やすには、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット 1、2）を取り外して交換します。
- 1GB のメモリを選択した方
  これ以上メモリ容量を増やすことはできません。

（イラストは機種や状況により異なります）

取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次の種類です。

- 種類：DDR（ディーディーアール）SDRAM（エスディーラム）DIMM（ディム）（SPD 付き）
- メモリバスクロック：PC3200（400MHz）
- ピン数：184 ピン
- 容量：256MB、512MB
- ECC：なし

LX50H、LX50HN をお使いの場合
メモリバスクロックは 266MHz で動作します。

POINT

SPD（エスピーディー）
Serial Presence Detect の略で、メモリの機能のひとつです。
必ず SPD 付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製の DIMM は、SPD 付きです。

ECC（イーシーシー）
Error Correcting Code の略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。
このパソコンでは使いません。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。
次の表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。

■ LX70H、LX50H をお使いの方、および LX70HN、LX50HN で 256MB のメモリを選択した方

総容量	メモリスロット 1（DIMM1）	メモリスロット 2（DIMM2）
256MB（ご購入時）	256MB	なし
512MB	256MB	256MB〔注 2〕
1GB（最大）	512MB〔注 1〕〔注 2〕	512MB〔注 2〕

注 1： あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。
注 2： デュアルチャネルで動作させるには、弊社純正品の同じ容量のメモリを 2 枚 1 組で取り付けてください。

■ LX70HN、LX50HN で 512MB のメモリを選択した方

総容量	メモリスロット 1（DIMM1）	メモリスロット 2（DIMM2）
512MB（ご購入時）	256MB	256MB
1GB（最大）	512MB〔注 1〕〔注 2〕	512MB〔注 1〕〔注 2〕

注 1： あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。
注 2： デュアルチャネルで動作させるには、弊社純正品の同じ容量のメモリを 2 枚 1 組で取り付けてください。

メモリを増やす

ここでは、メモリを増やす方法を説明します。
空いているメモリスロットにメモリを取り付ける場合と、取り付けられているメモリを交換する場合で手順が異なります。お使いのパソコンの状態を確認して、正しく行ってください。

警告

・メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意

・メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

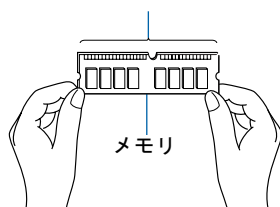
・基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

・メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
・メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

・メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

重 要

メモリについての注意

・メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
・メモリは下図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

・パソコン本体の電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。必ず電源プラグをコンセントから抜いたことを確認してください。

POINT

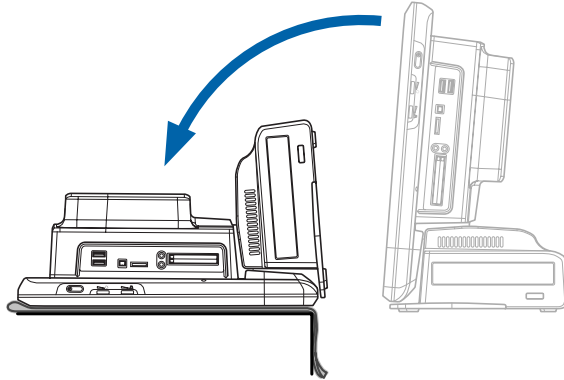
メモリの取り付け手順の動画を見ることができます

FMV 活用サイト AzbyClub（アズビィクラブ）ホームページ（http://azby.fmworld.net/）で、メモリ取り付け手順の動画がご覧になれます。

1 パソコン本体と接続されている周辺機器の電源を切ります。

2 電源プラグをコンセントから抜きます。

3 テーブルの端などを利用して、パソコン本体を横にします。

図のように、背面が上になるようにします。

（これ以降のイラストは、機種や状況により異なります）

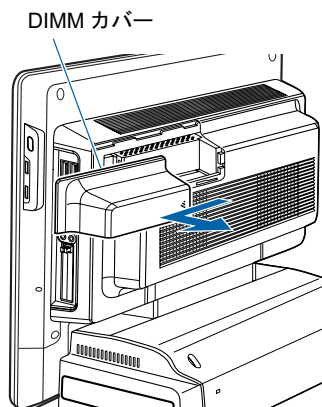
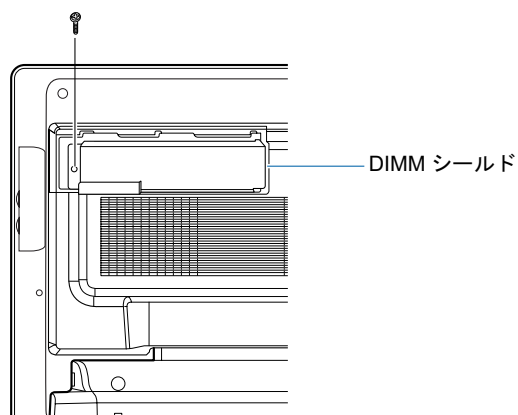
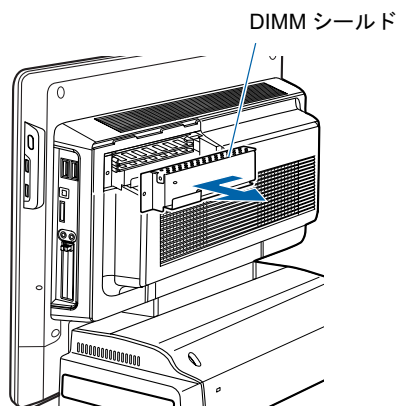
重 要

パソコン本体を横にするとき

・パソコンを横にするときは、作業はやわらかい布などを敷いた平坦な台の上で行ってください。特に、液晶ディスプレイに突起物などがあたらないようにしてください。
・パソコン本体は重量があります。横にするときに衝撃を与えたり、落下させないよう十分ご注意ください。

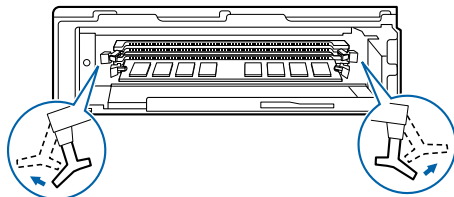
付録

次のページへ

4 DIMM カバーを取り外します。

5 DIMM シールドのネジ（1ヶ所）をプラスのドライバーで外します。

6 DIMM シールドを左側にスライドし、手前に取り外します。

7 メモリの取り付け場所とメモリ容量の組み合わせを確認します。

メモリの取り付け場所については、「メモリの取り付け場所」（••▶P.84）をご覧ください。
メモリの容量と組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」（••▶P.85）をご覧ください。

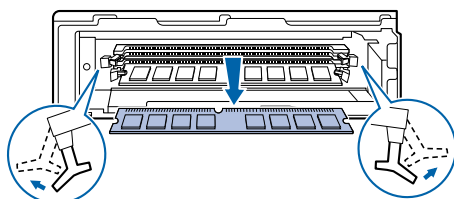
取り付けられているメモリを新しいメモリに交換する場合は、手順 9 へ進んでください。

8 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

重 要

レバーを外側に開くとき

メモリスロットの両側のレバーを外側に開くときに、指をはさまないようにご注意ください。

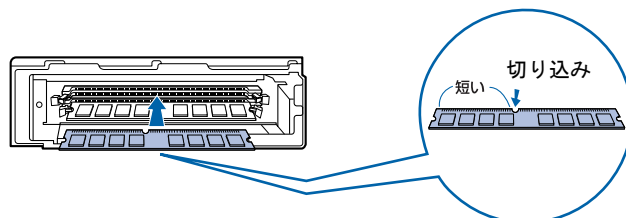
この後は手順 10 へ進んでください。

9 メモリスロットの両側のフックを外側へ開いて、メモリを引き抜きます。

重 要

メモリを取り外すときの注意

・メモリスロットの両側のレバーを外側に開くときに、指をはさまないようにご注意ください。
・フックを勢いよく外側へ開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

10 メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている部分から端までの距離が短いほうを左側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。
メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。
必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

（イラストは機種や状況により異なります）

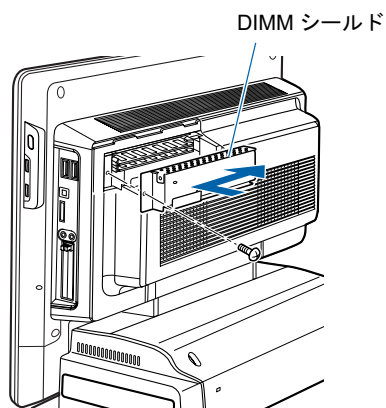
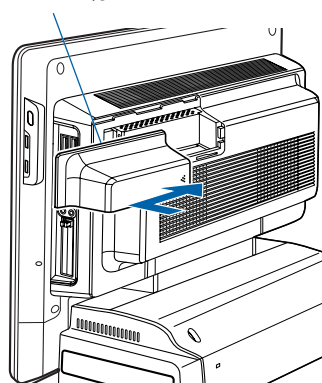
重 要

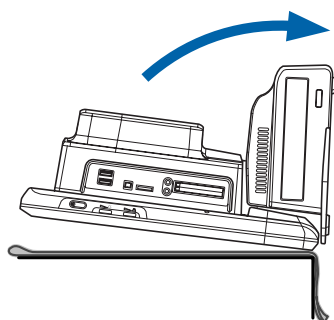
メモリの向きについて

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因となります。

付録

11 DIMM シールドを取り付け、手順 5（→P.88）で外したネジ（1ヶ所）で固定します。

ネジは固く締めすぎないようにしてください。

12 DIMM カバーを取り付けます。

13 パソコン本体を立てます。

図のように傾けるなどして、液晶ディスプレイ上部と台座の両方を持ちます。

重要

パソコン本体を立てるとき

パソコン本体は重量があります。立てるときに衝撃を与えたり、落下させないよう十分ご注意ください。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。
必ず、DIMM シールド、DIMM カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

1 **パソコン本体の電源を入れます。**

「電源を入れる」（••▶P.46）をご覧ください。

画面に何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。
その場合は、パソコン電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切り、電源プラグを抜いた後、メモリを取り付け直してください。

2 **パソコンが起動したら、「スタート」ボタンをクリックします。**

3 **「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 **○で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。**

（画面は機種や状況により異なります）

画面は、256MB 搭載のパソコンに 256MB のメモリを増設して、512MB に増やした例です。このパソコンでは、メモリの一部をグラフィック用メモリとして使用するため、8MB 少なく表示されます。
SCSI カードの増設などお使いのシステム構成によっては 1 〜 2MB 少なく表示される場合があります。

付録

5 「OK」をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

・増やしたメモリがこのパソコンで使える種類のものか
　「取り付けられるメモリ」（••▶P.85）

・メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
　「メモリを増やす」（••▶P.86）

・正しいスロットに取り付けられているか
　「メモリの取り付け場所」（••▶P.84）

・メモリを正しく組み合わせているか
　「メモリの組み合わせ表」（••▶P.85）

索引

この本で見つからない情報は、画面で検索しよう！

（サービスアシスタント）のトップ画面 → [ ]
キーワードを選ぶ

A

Application ボタン 60

C

Caps Lock 表示ランプ 56
CD/DVD 操作ボタン. 60
CD 取り出しボタン 58

D

DDR 85
DIMM 85

E

ECC 85

I

ID 設定値. 73
IEEE1394（DV）端子 58

L

LAN コネクタ 57
LINE 端子 57

M

Mute（消音）ボタン 60

N

Num Lock 表示ランプ. 56

P

PC カードスロット 58
PC カード取り出しボタン 58
PHONE 端子 57

S

Scroll Lock 表示ランプ 56
SDRAM. 85
SD カード／メモリースティックスロット . 58
SPD 85

U

USB コネクタ 57, 58

W

Windows
　－使用許諾契約書. 35
　－セットアップ 31
Windows Update .48

あ行

明るさ調節つまみ 58
アンテナ入力（F 型同軸）端子 57
インターネット. .47
インターネット接続ファイアウォール（ICF）.47
インターネットボタン. 60
インレット 57
ウイルス. 47
液晶ディスプレイ 56
液晶ディスプレイのお手入れ. 20
音量調整ボタン. .57
音量調節ボタン. .60
音量ボリューム. .58

か行

各部名称. 55
　－パソコン本体前面. 56
　－パソコン本体背面. 59
　－ワンタッチボタン. 60
乾電池について. .71
キーボード
　－ ID 設定値 .73
　－乾電池 71
　－混信を防ぐ. 73
　－準備. 26
　－通信周波数. 73
キーボード／マウスアンテナ. 56
機種名 16
強制終了. 45
クリック. 34
混信を防ぐ
　－ワイヤレスキーボード 73
　－ワイヤレスマウス. 73

さ行

サービスアシスタント. 41
再生／一時停止ボタン. 60
サポートボタン. .60
仕様 62
　－ LAN 機能. .67
　－液晶ディスプレイ. 67
　－内蔵スピーカー 67
　－ハードエンコーダ付き TV チューナー
　　カード. 68
　－リモコン 68
スーパーマルチドライブ. 58
スタンバイボタン 60
スピーカー 56
セキュリティ対策 47

接続する 23
セットアップ. 31
ソフトウェア
　－使い始める 42

た行

チャンネルスイッチ. 59
チャンネルボタン 57
通信周波数 73
通風孔. 59
次トラックボタン 60
停止／取り出しボタン 60
テレビ電源ボタン 56
テレビ電源ランプ 56
電源
　－入れる 43
　－切る 43
　－切れない場合 45
電源ケーブルの接続. 28
盗難防止用ロック取り付け穴 59
取り付ける
　－メモリ 86

な行

入力切換ボタン 57

は行

ハードディスク／ CD アクセスランプ. . . . 56
初めて電源を入れる. 30
パソコン電源ボタン. 58
パソコン電源ランプ. 56
バックアップボタン. 60
光デジタルオーディオ出力端子 58
ビデオ音声入力端子（左）. 57
ビデオ音声入力端子（右）. 57
ビデオ入力（S ビデオ）端子 57
ビデオ入力（コンポジット）端子. 57
品名 16
ヘッドホン端子 57
保証書. 21
ボリュームボタン（＋） 60
ボリュームボタン（－） 60

ま行

マイク端子 58
マウス
　－ ID 設定値 73
　－乾電池 71
　－混信を防ぐ. 73
　－準備. 26
　－通信周波数. 73
　－持ち方 33
前トラックボタン 60
メール着信ランプ 56
メールボタン 60
メニューボタン. 60
メモリ
　－の組み合わせ 85
　－の取り付け場所 84
　－の持ちかた. 86
　－を取り付ける 86
メモリスロット. 59, 84
メモリバスクロック 85
モード切換ボタン 57

や行

ユーザー登録 50

ら行

ラインアウト端子 57
ラインイン端子. 57
リモコン受光部. 56

わ行

ワイヤレスキーボード
　－ ID 設定値 73
　－乾電池 71
　－混信を防ぐ. 73
　－通信周波数. 73
ワイヤレスマウス
　－ ID 設定値 73
　－乾電池 71
　－混信を防ぐ. 73
　－通信周波数. 73
ワンタッチボタン 60

FMV-DESKPOWER LX70H,LX50H,LX70HN,LX50HN

パソコンの準備

B6FH-1331-01-01

発 行 日　2004 年 4 月
発行責任　富士通株式会社

Printed in Japan

㋐0404-3